

# 自己点検・評価報告書

平成21年度

千葉経済大学短期大学部

## 目 次

《千葉経済大学短期大学部の特色等》	1
I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	7
【建学の精神・教育理念について】	7
【教育目標・教育内容について】	7
【定期的な点検等について】	10
【特記事項について】	12
II 教育の内容	12
【教育課程について】	12
【授業内容・教育方法について】	16
【教育改善への努力について】	17
【特記事項について】	18
III 教育の実施体制	20
【教員組織について】	20
【教育環境について】	22
【図書館について】	25
【特記事項について】	27
IV 教育目標の達成度と教育の効果	28
【単位認定について】	28
【授業に対する学生の満足度について】	30
【退学、休学、留年等の状況について】	33
【資格取得の取組みについて】	36
【学生の卒業後の評価について】	37
【特記事項について】	41
V 学生支援	42
【入学に関する支援について】	42
【学習支援について】	48
【学生生活支援体制について】	50
【進路支援について】	54
【多様な学生に対する特別な支援について】	58
【特記事項について】	59
VI 研究	60
【教員の研究活動について】	60
【研究のための条件について】	62
【特記事項について】	65

VII	社会的活動	66
	【社会活動への取り組みについて】	66
	【学生の社会的活動について】	68
	【国際交流への取り組みについて】	69
	【特記事項について】	70
VIII	管理運営	71
	【法人組織の管理運営体制について】	71
	【教授会の運営体制について】	74
	【事務組織について】	76
	【人事管理について】	80
	【特記事項について】	81
IX	財務	82
	【財務運営について】	82
	【財務体質の健全性と教育研究経費について】	87
	【施設・設備の管理について】	90
	【特記事項について】	91
X	改革・改善	92
	【自己点検評価について】	92
	【自己点検評価における教職員の関与と活用について】	92
	【相互評価や外部評価について】	93
	【第三者評価(認証評価)について】	93
	【特記事項について】	94
	《*将来計画の策定》	94

【巻末資料】

- 資料① 学科別教育課程表
- 資料② 2008年個別授業に関する学生アンケート
- 資料③ 授業事例研究会
- 資料④ 授業相互参観実施に関する調査結果
- 資料⑤ 学科別単位認定状況表
- 資料⑥ 学科別ガイダンス日程表

## 《千葉経済大学短期大学部の特色等》

### 1. 千葉経済学園の沿革

昭和 8年	創立者佐久間惣治郎が、私立寒川高等女学校の経営を開始し、校長に就任
昭和 9年	千葉女子商業学校（乙種三年制の県下唯一の女子商業学校）を設立
昭和20年	戦災のため校舎全焼
昭和21年	千葉市轟町に移転
昭和23年	新学制施行に伴い新制千葉女子経済高等学校となる
昭和26年	私立学校法施行に伴い学校法人佐久間学園となる
昭和29年	千葉経済高等学校と改称、男子部を新設
昭和40年	学校法人千葉経済学園と改称
昭和43年	千葉経済大学短期大学（商経科）設置
昭和46年	学園附属なでしこ幼稚園設置
昭和63年	千葉経済大学設置
平成 5年	千葉経済大学大学院経済学研究科（修士課程）設置

### 2. 千葉経済大学短期大学部の沿革

昭和43年	千葉経済短期大学（商経科）設置
昭和52年	初等教育科設置
昭和59年	別科経営情報専修設置
昭和62年	別科経営情報専修を商経科経営情報専攻に改組
平成 5年	千葉経済大学短期大学部と名称変更 商経科経営情報専攻を経営情報科に改組
平成15年	特色GPに「こども造形教室」の取組が採択される。
平成16年	商経科、経営情報科をビジネスライフ学科に、初等教育科をこども学科に改組
平成17年	特色GPに教育実習記録集「ひろはら」の取組が採択される。 短期大学基準協会による第三者評価で適格と認証される。
平成19年	学生支援GPに「キャリアデザインをコアとする修学支援策」の取組が採択される。

### 3. 所在地、位置、周囲の状況

所在地 千葉市稲毛区轟町 4-3-30

位置図 P6のとおり

周囲の状況

千葉市のほぼ中心部に位置する静かな文教地区であり、周辺には千葉大学をはじめ公立の小・中学校がある。JR 西千葉駅及び千葉都市モノレールの駅が至近にあり、千葉駅や幕張新都心への交通も至便である。

高度の都市機能と豊かな自然環境を兼ね備えた地域である。

4. 法人理事長、学長の氏名、連絡先、略歴

理事長 佐久間 勝彦 (さくま かつひこ)

(略歴)

生年月日 昭和19年12月17日生 (65歳)

学歴 昭和43年 3月 早稲田大学第一政治経済学部経済学科卒業

昭和45年10月 早稲田大学大学院文学研究科教育学専攻修士  
課程修了

職歴 昭和51年4月 千葉経済短期大学専任講師採用

昭和54年4月 同 助教授

昭和61年4月 同 教授

平成 2年4月 同 初等教育科学科長

平成 2年6月 同 副学長

平成 6年4月 千葉経済大学附属高校校長

平成10年4月 千葉経済大学短期大学部学長

平成16年7月 千葉経済学園副理事長

平成17年4月 同 理事長

社会における活動状況

日本私立短期大学協会副会長、関東私立短期大学協会会長、

千葉県道德教育推進会議議長、千葉県学力向上推進委員会副会長等

賞罰 なし

(連絡先) 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町4-3-30

電話番号 043-255-3451

学長 佐久間 勝彦 (さくま かつひこ)

略歴等省略

5. ALOの氏名、連絡先、略歴

氏名 飯名 皓作 (いいな こうさく)

(略歴)

生年月日 昭和16年 2月16日 (68歳)

学歴 昭和38年 3月 明治大学経営学部経営学科卒業

昭和53年 3月 明治大学大学院経営学研究科博士課程単位取  
得退学

職歴 昭和38年 4月 公認会計士西島常祐事務所

昭和43年 4月 学校法人富士学院非常勤講師

昭和49年10月 千葉経済高等学校非常勤講師

昭和58年 4月 千葉経済短期大学専任講師

昭和61年 4月 千葉経済短期大学助教授

平成 5年 4月 同 教授

平成19年 4月 同 ビジネスライフ学科学科長

社会における活動状況

日本会計研究学会、日本経営学会、証券経済学会、日本経営財務

研究学会、日本簿記学会、日本経営教育学会  
 賞罰 平成15年12月 千葉県私学教育功労者表彰受賞  
 (連絡先) 〒263-0021 千葉県稲毛区轟町4-3-30  
 電話番号 043-255-3451  
 FAX 番号 043-252-6050  
 e-mail [iina@chiba-kc.ac.jp](mailto:iina@chiba-kc.ac.jp)

6. 平成15年度～21年度の設置学科、入学定員等

学科等の名称		15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	備考
商経科	入学定員	160	募集停止	/	/	/	/	/	
	入学者数	176							
	入学定員充足率 (%)	110							
	収容定員	320	160						
	在籍者数	330	180						
	収容定員充足率 (%)	103	112						
経営情報科	入学定員	100	募集停止	/	/	/	/	/	
	入学者数	83							
	入学定員充足率 (%)	83							
	収容定員	200	100						
	在籍者数	192	86						
	収容定員充足率 (%)	96	86						
ビジネスライフ学科	入学定員	/	200	200	150	150	150	150	16年度 新設
	入学者数		206	191	187	165	150	166	
	入学定員充足率 (%)		103	96	124	110	100	110	
	収容定員		200	400	350	300	300	300	
	在籍者数		206	389	381	354	317	311	
	収容定員充足率 (%)		103	97	108	118	105	103	
初等教育科	入学定員	100	募集停止	/	/	/	/	/	
	入学者数	128							
	入学定員充足率 (%)	128							
	収容定員	200	100						
	在籍者数	266	131						
	収容定員充足率 (%)	113	131						
こども学科	入学定員	/	150	150	200	200	200	200	16年度 新設
	入学者数		199	196	212	215	206	198	
	入学定員充足率 (%)		131	131	106	107	103	99	
	収容定員		150	300	350	400	400	400	
	在籍者数		196	391	406	427	419	397	
	収容定員充足率 (%)		131	130	116	106	104	99	

7. 過去3年間の入学者の出身地別人数及び割合

(各年度5月1日現在)

出身地	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
千葉県	345名 (86.5%)	342名 (90.0%)	321名 (90.2%)	
第1学区	81	81	48	千葉市
第2学区	76	69	74	船橋市、市川市他
第4学区	57	47	58	成田市、佐倉市他
第6学区	21	32	24	東金市、山武郡他
その他学区	110	113	117	柏市、君津市他
東京都	12 (3.0%)	12 (3.2%)	12 (3.4%)	
その他道府県	42 (10.5%)	26 (6.8%)	23 (6.5%)	
合計	399	380	356	

8. 千葉経済学園が設置するほかの教育機関の所在地、入学定員、収容定員、実員

(平成21年5月1日現在)

区分	所在地	入学定員	収容定員	実員
千葉経済大学	千葉市稲毛区轟町 3-59-5	250名	1,000名	1,081名
千葉経済大学 附属高等学校	千葉市稲毛区轟町 4-3-30	560名	1,800名	1,530名

9. その他

千葉経済大学短期大学部の特色

本学は、昭和43年の開学当初から、特色ある学風、時代の求める有為な職業人の養成を目指し、積極的な教育・研究活動を展開してきた。昭和44年に教職課程(中学校社会科二級普通免許)を、また昭和47年に司書課程を設置したのは、時代や学生のニーズに対応して特色ある教育実践と有為な職業人養成を実現しようという姿勢を示すものといえよう。

さらに昭和50年には付属都市問題研究所を設置し、開放講座を実施するなど、地域社会との連携を一層強固なものとするための施策が講じられた。

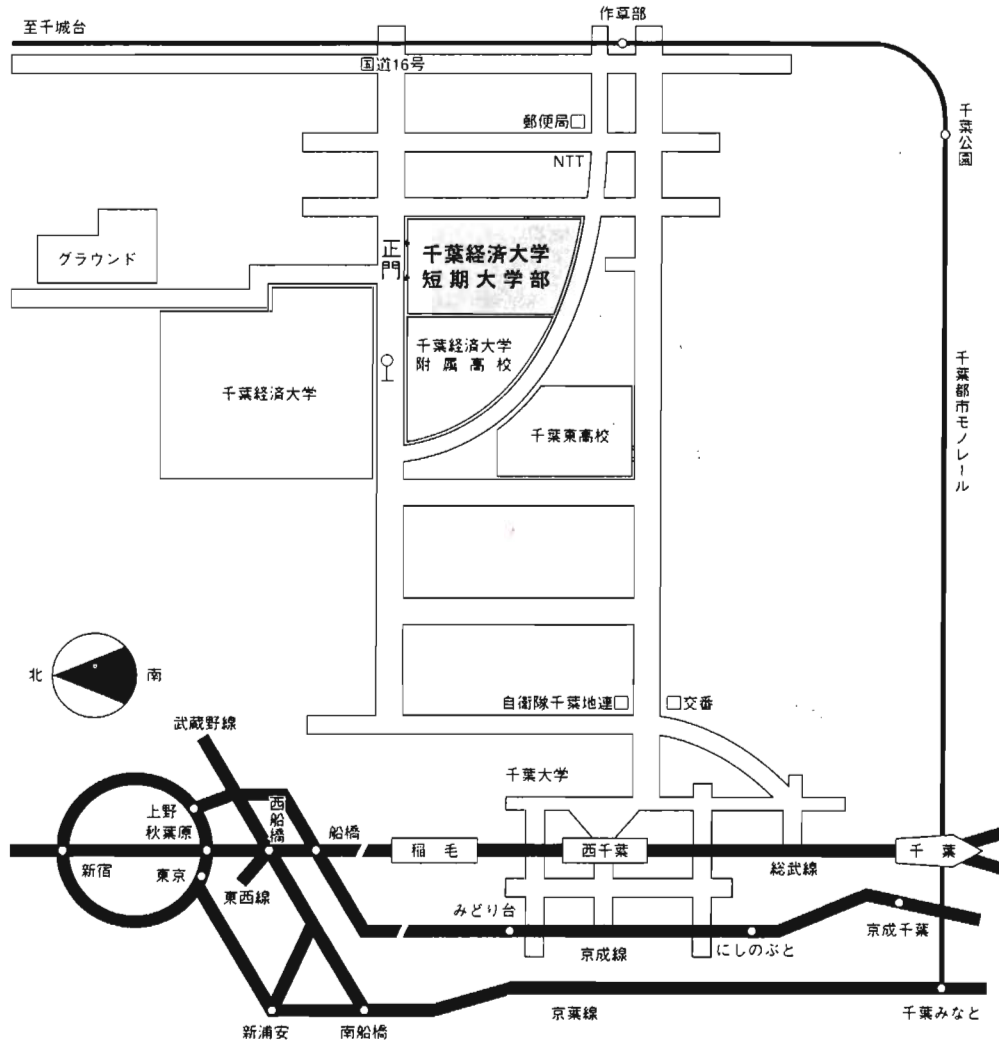
その後、小学校教員養成課程の設置、保育士養成の開始等、常に積極的な改革を推進してきた。

このような大学の姿勢、特色が文部科学省の特色GPに2度(平成15年度に、「もう一つの学校『こども造形教室』」および平成17年度、「教育実習記録集『ひろはら』」を核とした教員養成)、学生支援GPに一度(平成19年「キャリアデザインをコアとする修学支援策—自分の夢の実現を目指して—」)採択されるなど、極めて高い評価につ

ながっていると考えられる。

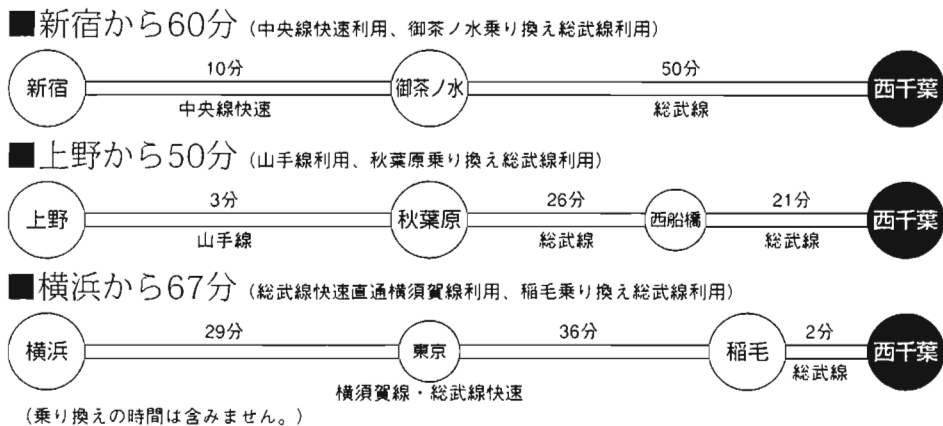
認証機関による第三者評価についても開始初年度(平成 17 年度)に受審し、適格認定を受けている。





JR総武線・西千葉駅下車徒歩13分  
 西千葉駅からちばシティバス・千葉経済大学バス停下車徒歩0分  
 千葉都市モノレール・作草部駅下車徒歩5分

交通案内図



## I. 建学の精神・教育理念及び教育目的・教育目標

### 【建学の精神・教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

千葉経済学園は、昭和8年に佐久間惣治郎により創始された。旧制県立高等女学校の校長であった創始者は、知育偏重で道徳教育を軽視していた当時の教育の現状を深く憂い、理想の教育を行うため自ら私学を興し、自主性と創意及び生徒に対する愛情と個性を尊重した徳育重視の教育を目指し、「片手に論語、片手に算盤」の校訓を掲げた。

人としての倫理や道徳を養いながら、「算盤」に象徴される、職業人として自立できる「職業に結びつく技術」を備えさせる教育の重要性を強く打ち出したのである。

上記のような建学の精神に基づき、昭和43年に設置された千葉経済短期大学（当時）の校是は「良識と創意」と定められた。

民主主義を支える国民として必須の健全な倫理観に裏打ちされた良識と、社会、経済の発展をもたらすために必須な独創性や創意を育むことが本学の教育理念であり、本学の大学運営、教育の支柱となっている。

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

この確固とした明確な建学の精神は、学園全体としての教育の理念として脈々と受け継がれ、短期大学部においても太いバックボーンとなっており、入学式等様々な機会に理事長や学長から、学生のみならず教職員に対しても伝えられ、また、パンフレットや『千葉経済学園50年史』、『同60年史』等の様々な印刷物、出版物、ホームページによっても明確に示され、伝えられている。

「良識と創意」との教育理念は、入学式を始め様々な機会に理事長・学長等から学生や教職員のみならず、学生の保護者に対して伝えられているばかりでなく、大学本部棟の正面に石碑として掲げられ、学生が毎日登校する際に目に付くよう配慮している。

### 【教育目的・教育内容について】

(1) 多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

## <ビジネスライフ学科>

ビジネスライフ学科は、商経科及び経営情報科を統合・改組して平成16年4月に設置された。前身の商経科は昭和43年に、経営情報科は従来の商経科経営情報専攻を改組し、平成5年に開設されたものである。

商経科は「良識と創意」という短期大学の校是のもとに、良識ある職業人、常に新しいものを生み出す能力を持つ職業人の育成を目的として、経済学、経営学、簿記会計等の科目を重点的に配置し、実務に活用できる実学教育を旨とし、変化の著しい経済社会の推移に対処できる能力と人格の育成を教育の目標とした。

また、経営情報科は社会の情報化の急速な進展に伴い、コンピュータソフトウェアに関する知識と技術を兼ね備えた有為な人材を育成することを目的とした。

その両学科を統合・再編したビジネスライフ学科は、従来の両学科の教育内容を更に発展させ、生涯学習、社会福祉、IT化の進展等変化の著しい社会において、実務能力を有するとともに、熱意、意欲、行動力、実行力、協調性や人間性を兼ね備えた人材を養成することを目指している。

今日、学生の卒業後の進路選択はきわめて多岐なものとなってきたため、様々な進路選択を可能とする総合的で多様な教育を行うことが必要不可欠となっている。

自己のライフプランを自ら築くことの出来る力を備え、ビジネス界で活躍することの出来る知識や技術、及びどのような状況の中でも自己を見失わずの確に対応できる人間性を育むため、(ア)大幅な自由選択制を取り入れた多彩なカリキュラム、(イ)充実したIT教育、(ウ)種々の資格が取得できる教育内容、(エ)インターンシップ制度の導入、(オ)1年時からの少人数ゼミの開設等の特色ある教育を展開している。

なお、平成19年7月の短期大学設置基準の改正に伴い、学科ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、アドミッションポリシーとして公表するものとされたところであるが、本学においては平成19年12月の教授会において「ビジネスライフ学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的について」及び「求める学生像」を定め公表しているところである。

### 目指す教育

ビジネスライフ学科は、校是である「良識と創意」に基づき、社会人として健全な判断のできる良識と社会の変化に対応できる創意を兼ね備えた、人間性豊かな学生の養成を目指します。

そのために学生が自由に選択できるフィールド制を採用し、キャリアデザインの科目を核とした学習支援に努めます。自分の夢の実現に向かって専門的な教養を着実に身につけた学生は、社会常識を豊かに備えて新しい状況に的確に対応できる社会人に成長していきます。

### 求める学生像

- 1 職業人として社会に貢献するために、豊かな教養を身につけるとともに創意の心を養おうと志す学生
- 2 キャリア意識を的確にもち、ビジネス界が求める専門的な教養を身につけるためにひたむきに努力する学生
- 3 自分の描く将来の夢を実現するために、地道に努力を重ねて積極的に学ぼうとする学生

## <こども学科>

こども学科は昭和52年に開設した初等教育科を改組し、平成16年4月に開設された。初等教育科は、急激に人口が増加し、小学校、幼稚園教諭が著しく不足していた地域のニーズに応え、教育や教科についての知識や技術を身に付けることはもちろんのこと、教育実践力に富み、こどもの豊かな可能性を引き出す力量を備え、一人一人のこどもと真剣に向き合うことの出来る教員を養成することを目的とした。

初等教育科を改組したこども学科においては、従来の幼稚園、小学校の教諭に加え保育士の資格を取得できる保育コースを設置し、こどもについて乳児期から学童期まで幅広く学び、実践力と人間性の調和した有能な教員、保育士を養成することを目的としている。

カリキュラムにおいては、音楽、造形、体育などの実技科目も重視するとともに、「こども造形教室」等において多くのこどもたちと触れ合うことを通じ、深いこども理解を身に付けた実践的な能力のある人材の育成を目指している。

ビジネスライフ学科と同様、短期大学設置基準の改正に対応して「こども学科の人材の育成に関する目的その他の教育研究上の目的」を定め公表しているところである。

また併せて「求める学生像」も公表し、入学する学生の目的意識を明確なものとし、教育に対する意欲とキャリア意識の向上を目指している

### 目指す教育

こども学科は、深い人間理解を基礎とした幅広い教養と実践力を兼ね備えた教師と保育士の育成を目指します。

そのために教育や保育、福祉の原理や理論について深く学ぶ講義科目とともに、実践的・体験的に学ぶ実習科目も多く開設して、こどもについて基本から豊かに学ぶことができるように努めます。学生は卒業後、即戦力となって職務に就きますが、ものごとを自分の目で見、自分の頭で考えて、幼いこどもと温かく対応できる教育者・保育者として成長していきます。

### 求める学生像

- 1 こどもと一緒に過ごすことを生きがいと感じ、明るくこどもと接する教育者や保育者を目指す学生
- 2 教師や保育士が備えなければならない資質を幅広く身につけるために、ひたむきに学ぶ学生
- 3 目先の楽しさだけを求めるのではなく、困難なことにも挑戦して、将来の遠い目標に向かって地道に歩もうと務める学生

(2) それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在はどういう方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

学生便覧に「学科の目指すものとその特色」を掲載し、入学時の履修ガイダンスで各学科の特色を新生に紹介し、理解を深めるとともに、2年次の当初の履修ガイダンスでも再度、学科の方針を確認している。教職員についても、学生便覧を毎年配布して、周知を図っている。

## 【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が定期的に行なわれている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

平成 19 年度に短期大学設置基準の改正に伴い、各学科の人材の養成に関する教育・研究上の目的等については、各学科会議、執行部会および教授会で議論した。各学科の有り様を具体的な形として示す教育目的・教育目標については、カリキュラムの編成・実施に際して、また、入試の募集要項や広報用パンフレットの作成時において重要な検討課題として認識し、常に時代の要請や地域、学生、生徒の実態やニーズに対応しながら点検されている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

必要とされる要因によって、それぞれ異なる学内組織が検討を行うこととなる。例えば、受験する生徒の実態の変容に伴って見直しが必要な状況が生じた場合には「入試対策会議」及び学科会議で、カリキュラムを変更する場合には「教務部会」及び学科会議で、まず検討を行い、最終的には教授会において議論し、合意を得るという手続きで点検されている。

## 【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また、短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

本学の校歌には「培わん花の良識、鍛えなん創意のこころ、建学の基（もと）忘れず、語り継ぐ母校の榮譽（ほまれ）、うけとめて受けとめて我らここに励む」（3 番）とある。

学生は入学式の折にこの校歌に接し、その後折にふれて歌い、建学の精神をかみ締めて過ごしている。

## II. 教育の内容

### 【教育課程について】

- (1) 学科等の現在の教育課程を、下の表を例に作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。
- 平成 21 年度に学科改組等を行った場合は、平成 20 年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

巻末資料① ビジネスライフ学科教育課程表  
こども学科教育課程表  
司書課程教育課程表

- (2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

### <ビジネスライフ学科>

#### ①教養教育について

教養教育としては、「ライフデザイン」、「教養」、「国際コミュニケーション」及び「スポーツ」関係科目（ユニットと称している）から構成される「ライフデザインと教養フィールド」が置かれ、23 単位以上を取得することが卒業要件とされている。

各ユニットの内容としては「ライフデザイン」ユニットは、キャリアデザイン、インターンシップ、経営学、初めての経済学等の科目、「教養」ユニットは、房総の地域史、生活と法等の科目、「国際コミュニケーション」ユニットは、基礎英語、海外語学研修等の科目、「スポーツ」ユニットは、スポーツ演習等によって構成されている。

また、本学の大きな特色である必修のゼミが、教養教育の見地からも大きな役割を果たしている。特に 1 年次生の必修である「基礎ゼミ」では、学生生活を送るに当たって必要となる基本的なノートテキング、リーディング、プレゼンテーション等の学習スキルを学び、ビジネス教養に関する基礎的知識を修得し、社会人としてのマナーを身につけるためのホームルーム的な役割も持ち、教員と学生及び学生同士の人間的な触れ合いを深める場ともなっている。

#### ②専門教育について

ビジネスライフ学科は、学生が自由に選択できるフィールド制を採用し、学生一人ひとりがそれぞれの目的の実現に向かって専門分野の学力を確実に身に付けさせることを目指している。

そのため、専門教育は、「エコノミスト」、「ビジネスマーケティング」、「アカウントティング」、「インターネット」、「コンピューターマスター」の 5 つのフィールドから、学生がおのおののメインフィールドを決め、自らのキャリアデザインに応じた専門教育

を選択することになる。

それぞれのフィールドの専門教育の内容は充実しており、必修の基礎ゼミに学生一人ひとりが自分の将来の夢を明確にし、その夢を実現するための科目の選択、学習計画作りをサポートする「キャリアデザイン」、そして様々な資格取得支援等によって、有為な職業人としての専門性を身に付けていく。

### ③専任教員の配置について

短期大学設置基準上の必要専任教員数は7名であるが、現在の専任教員数は12名と極めて手厚い配置状態にある。

そのため、専門のフィールドの主要科目はおおむね専任教員が担当しており、全体として授業科目の専任教員担当比率は高いと言える。

## <こども学科>

### ①教養教育について

共通科目として「一般教育科目」、「基礎科目」及び「その他の科目」が設けられており、「一般教養科目」から6単位以上、「基礎科目」から8単位以上の修得が卒業要件となっている。

「一般教養科目」は文学、歴史への旅、社会学、心理学、数学、生物学、法学等の科目によって構成されている。

「基礎科目」は必修の総合演習、スポーツ演習、こども学原論、英語コミュニケーション等から構成されている。また、「その他の科目」は、ピアノ音楽、スクーバダイビング、スキー、乗馬、海外語学研修、教育・保育ボランティアから構成されている。

なお、こども学科は、幼稚園・小学校教員免許、保育士資格が取得できるカリキュラムとなっているため、これらの科目の中には免許・資格取得に必要な科目も含まれている。

### ②専門教育について

こども学科においては、小学校・幼稚園教諭の課程認定及び保育士養成施設の認定を受けており、それぞれの免許、資格を取得できるようになっている。

こどもに関する幅広い知識や教養を身に付け、実践者としての基本技術と現場で会う困難な状況に創造的に対応できる能力を備えた教員養成と保育士養成が実現できる教育を実践している。そのため、こども理解を深め、こどもについて総合的に学ぶための授業科目を設定するとともに、実践的な力を身に付けさせるための実習・実技科目も充実している。

また、実習以外に、幼児・児童の理解と教育的、保育的人間関係の形成について体験的に学ぶことができるよう、「こども造形教室」（毎月第2土曜日に地域の小学生、幼稚園・保育園のこどもたち約150名を対象に、こどもの造形的な力を育むとともに、社会性を育成する社会貢献プログラム）を実施しており、学生たちも準備段階から当日のこども指導まで参加している。（平成15年度文部科学省の「特色ある大学教育プログラム」に採択）

### ③専任教員の配置について

こども学科の短期大学設置基準上の必要専任教員数は11名（短期大学全体の必要

専任教員数 5 名を除く) であるが、現在の専任教員数は 18 名であり、手厚い教員の配置状況にある。そのため、主要な専門科目はおおむね専任教員が担当している。

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また、教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

①教育課程を履修することにより取得が可能なもの

<ビジネスライフ学科>

図書館司書

<こども学科>

小学校教諭二種免許、幼稚園教諭二種免許、保育士、図書館司書、レクリエーションインストラクター、幼・保リトミック指導資格

②教育課程の中に資格取得につながる科目を設けているもの

<ビジネスライフ学科>

秘書技能検定\*、簿記検定\*、実用英語技能検定\*、日本語文書処理技能検定、ファイ、ナンシャル・プランナー、シスコ技術者認定等

\*については既取得者に単位認定を行う制度が設けられている。

資格とそれに関連する科目

資格名	関連科目名
秘書技能検定	秘書学 I・II、上級秘書学 I・II、秘書学特講
簿記検定	基礎簿記 I・II、応用簿記 I・II、原価計算 I・II 簿記演習 I・II
実用英語技能検定	基礎英語 I・II、応用英語 I・II、基礎英会話 I・II 応用英会話 I・II
日本語処理技能検定	PCリテラシー、PCプラクティス、コンピュータ実習 I・II
ファイナンシャル・プランナー	ファイナンシャル・プランナー
シスコ技術者認定	ネットワーク実習 A・B、インターネットワーキング実習 I・II 他

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でのように指導しているか、また、学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

<ビジネスライフ学科>

131 科目 (238 単位) の中から必修 12 科目 (18 単位)、選択必修科目 (9 単位) の履修が決められており、選択科目は自分の進路にあった 8 つのフィールドの中から選択できるようになっていて、学生の選択の幅は非常に大きいと思われる。



また、学生の学習プランについては必修科目のキャリアデザインⅠ、Ⅱで進路指導を重ねて行っている。

### <こども学科>

126科目(222単位)の中から必修5科目(8単位)、選択必修科目(6単位)の履修が決められている。

卒業要件としての選択の幅は広いが、小学校・幼稚園の免許、保育士の資格を取得するためには要件が決まっており、学生の選択は限定されている。

(注) 学生便覧における掲載頁

○ビジネスライフ学科 P23 ～ P31

○こども学科 P33 ～ P52

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等)を示して下さい。また、学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

本学学則に基づく卒業要件は、休学期間を除き、本学に2年以上在学し、それぞれの学科で定められた必修科目を含めて62単位以上を修得することとされている。

各学科の必要単位数は次のとおりである。

### <ビジネスライフ学科>

ライフデザインと 教養フィールド	ライフデザインユニット	12単位以上
	教養ユニット	8単位以上
	国際コミュニケーションユニット	2単位以上
	スポーツユニット	1単位以上
ゼミナールフィールド		4単位以上
メインフィールド		10単位以上
オプション		*
総計		62単位以上

\* 司書課程科目、他学科科目(教養科目を除く)、他大学科目の単位を8単位まで含めることができる。

### <こども学科>

共通科目	一般教養科目	6単位以上
	基礎科目	8単位以上
専門科目		40単位以上
自由選択科目		8単位以上
総計		62単位以上

\* 前記に加えて、小学校・幼稚園免許要件、保育士資格要件、図書館司書資格要件に

についても、学生便覧・入学時ガイダンスで周知徹底を図っている。

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者（学科長、学科主任等、以下「学科長等」という）が記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

本学科は雇用情勢の変化や千葉県に増加しつつある流通業界やコンピュータ産業界の要請、また学生の多様なニーズに対応するため、従来の経済・経営・会計を中心とした商経科と経営知識を備えた情報技術者養成を目的とした経営情報科とを統合して平成16年度に設置したものである。

新学科ではこれまでの専門科目中心の教育を改め、専門性とともにも多様性・総合性を重視するカリキュラムに改善した。つまり、職業意識の乏しい若者が増大する現状に鑑み、キャリアデザイン科目を設置した。また自分の進路に応じた職業の選択と資格取得のために科目選択が自由で、一つの専門性にとどまらず、幅広く学ぶことのできるフィールド制を導入した。

今後の方針としてはビジネスの基礎知識や社会常識、あるいはマナーの修得を徹底させるために、専門ゼミはもとより基礎ゼミの一層の充実を図り、また必修科目は学生の多様化に応じて、ビジネスの基礎的な科目に限定する。そして社会や学生のニーズに応えるために幅広い教育課程の編成を追究したい。さらにインターンシップの拡充をはかり、学生に実習体験を通じて社会的責任の大切さを身に付けさせたい。

#### <こども学科長>

本学科は平成16年度、志願者に保育士資格希望者が多数存在することに応え、保育士養成のための科目を加え、「こども学科」に名称変更して初等教育コースと保育コースを設けて誕生した。これに伴い、従来の教育課程と調和を図るため、従来の科目も科目分割、名称変更、単位数変更を行い、さらに共通科目を新設して、こどもについて総合的に学ぶことができるようにした。初等教育コースでは小免と幼免、保育コースでは保育士資格と幼免取得可とし、また、卒業単位を62単位として両コースとも免許・資格を取得せずに卒業することも可とした。

その後は、本学科の教育理念に沿った質の高い教員・保育士養成を効果的に達成するため、若干の科目新設・分割を行った。

さらに現在、平成19年の教育職員免許法改正に伴う教育課程の改定について準備中である。

#### 【授業内容、教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要綱を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

シラバスの内容については、①授業の目的・テーマ、②授業の内容・計画、③授業の形態、④教科書、⑤参考書、⑥評価の方法の6項目について記載することで統一している。

さらに、その内容の充実に関して、学科をあげて取り組んでいる。その最大のポイントは、(ア)説明表現が学生にわかりやすくなっていること、(イ)授業目標、授業計画が明確で理解しやすいことの2点である。この2つの観点から学科長、教務部長等複数の教職員による内容確認を行い、必要に応じて個別に教員に対して改善の指示を出して内容充実に努めている。

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

平成20年度の学生の授業評価アンケートによれば、75%以上の学生が遅刻や欠席もほとんどなく、誠実に授業に取り組んでおり、約70%の学生は受けた授業に興味や関心を示していて、履修態度や学業に対する意欲はおおむね良好と考えられる。しかし、当学科では履修科目が多岐にわたり、また多様な学生が入学してきていて、学生間の学力格差がかなり見られ、授業の予習や復習などを行っている学生が50%に満たない。このことは検討課題の一つである。

#### <こども学科長>

こども学科入学生の大多数は、免許・資格の取得を目的としているため、意欲的に学習に励んでいる。平成20年度の学生による授業評価アンケート結果からも、ほとんどの学生が遅刻や欠席をせず授業に出席しており、受講の結果、多くの学生が授業の内容に興味や関心を持って学習していることが分かる。(アンケート項目の「興味・関心」については徐々に得点が増え続け、平成20年度後期は過去最高点となっている)。

資格取得の面から学生の意欲を見ても、初教コースの教員免許取得率はこの3年、年ごとに増加し、平成20年度には小免78%、幼免90%と高い取得率を示し、保育コースは保育士資格90%強、幼免80%第を維持し高い取得率で、両コースとも学業に対する意欲が高い。入学から卒業までの平均単位取得数も約97単位と大変高く、この点からも意欲の高さを知ることができる。これは、教師・保育士としての資質向上のため、また将来の就職のためには複数の免許・資格取得が望まれることなどを履修ガイダンスで十分理解させ、学生の意欲を高めた結果であると考えられる。

学生による授業評価アンケート結果から次のことも分かる。すなわち、授業のための予習や復習などについて、授業外の学習の評価点は年々上がっているものの、大半の学生が指示されたときしか授業外では学習しない、ということである。授業の満足度に対する回答はかなり評価が高いことから、大部分の授業では十分な学習がなされていることがわかるが、これは、授業が具体的で理解しやすいものとなっているためと理解される。しかし、授業外の自発的な学習を要するような科目、理念的・概論的・論理的な内容の科目では徐々に興味をなくし、学習への意欲も萎えていくことが心配される。

以上に述べたように、意欲はあるが受動的な学習態度の学生が多く、また入学時から論理的、抽象的思考の苦手なことに加え基礎学力の不足する学生も多くなってきている。授業で理解できないことがあったとき、また、授業での学習を発展させてより深く理解することが必要なときに、自ら意欲的に学ぼうとする姿勢を持たせるための指導が必要であるとともに、今後は自ら学ぶための基礎学力の指導も必要となろう。

### 【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

平成 15 年度より年 1 回もしくは 2 回授業評価アンケート調査を行ってきている。平成 20 年度末には、専任教員、非常勤講師が担当する 173 科目について授業評価アンケート調査を行った。その結果については担当教員にフィードバックし、授業改善に役立てるよう促している。

評価結果の概要は、巻末資料②のとおりである。

(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動等）へ組織的な取り組み状況について記述して下さい。また、短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

FD活動については教員によるFD推進委員会を設置し、常に学生の満足度に留意しながら授業を改善することに努めている。

具体的な活動については、教授会メンバーでの授業事例報告会や他の教員の授業を参観する授業相互参観制度などで、教育方法の相互理解により授業改善を図っている。

SD活動については、SD委員会を設置して職員の能力アップのための施策を職員が自発的に検討・実施することになっている。

具体的な活動については、学内・外研修の機会を増やすとともに、事務局内の定例会議などで職員間の上下及び横の情報共有を促進している。

授業事例研究会 巻末資料③

授業相互参観に関する調査 巻末資料④

### <学長>

本学においては、従来からFD活動には積極的に取り組んできたと考えている。学生による授業評価、授業事例研究会、授業相互参観等の活動を地道に行ってきた結果、一人ひとりの教員の授業改善は少しずつではあるが進展してきていると思う。

ただし、同時に 18 歳人口の減少に伴い、入学してくる学生の学力や目的意識、意欲などが大学教育を根幹から見直す必要が生じるほど大きく変化してきていることは否めない事実である。そのため、授業における指導のみならず、生活指導、就職指導等がま

すます困難なものとなってきているので、今後とも地道な活動を進めていく必要がある。

**(3) 授業担当について教員間の意志の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

#### ＜ビジネスライフ学科長＞

同一科目を複数の教員が担当している場合は、教科書などを統一し、授業進度の調整を行っている。また、同じフィールド内では科目の目的や関連事項の調整を行っている。当学科では個々の教員の専門性が異なり、協力体制が作りにくい面があるが、検定試験への取り組みなどでは協力体制ができている。兼任教員は学生の資格取得のために、検定試験などに向けて専任教員と意思の疎通をはかる努力をしている。

これら諸関係を一層効果的に改善するものとして、授業事例研究会がある。ここでは学科内での科目を超えた意見交換がみられ、さらには学科を越えての教員同士の交流が可能となっている。更に、相互の授業参観では、遠慮なく参観しあい、良い面は積極的に取り入れるなどしており、教員間の意思疎通は比較的良くできているものとする。

#### ＜こども学科長＞

授業事例報告会や授業相互参観及び学科会議などで、お互いの授業について、また学生の教育のための共通理解、意思の疎通を図っている。教育実習や保育実習の巡回指導のための共通理解、「こども造形教室」の協力体制についても理解を形成し、また、個人間でもお互いの授業について語り合い、良い点は取り入れ合ったりアドバイスをし合ったりしている。

一つの授業を複数のクラス・複数の教員担当で開講している場合は、共通の内容で授業ができるよう担当者同士で話し合い、同じ資料・教材・評価基準を用いるなどしている。また、音楽等の実技試験では、一人の学生の実技に対し各教員が評点を出し、それを平均して最終評価とするなどの協力体制をとっているものもある。

#### 【特記事項について】

**(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。**

他大学には無い際立った特色という訳ではないが、小規模大学としてバランスよく情報教育、国際教育、体験教育、インターンシップ等を地道に推進していることを特記事項として掲げたい。

情報教育については、教員構成、施設・設備ともに充実していると考えている。授業科目としても、コンピュータリテラシー等の基礎的な科目から、コンピュータネットワ

ーク、コンピュータアート等最新のコンピュータ技術を活用する科目まで多岐にわたり、授業用ばかりではなく実習用のパソコンも、最新の機種のもを整備している。

また、国際教育、英語教育についてもハワイ大学・カウアイ・コミュニティ・カレッジとの長年の交流によって相互信頼が確立し、有意義な極めて密度の濃い異文化体験研修制度が確立している。

更に、文部科学省の特色GPに平成15年度と平成17年度の二度、「もう一つの学校『こども造形教室』及び「教育実習記録集『ひろはら』を核にした教員養成」が、また、平成19年度には学生支援GPに「キャリアデザインをコアとする修学支援策—自分の夢の実現を目指して—」が採択されている。これは本学が教育指導面、学生指導面で全国的にも優れた先進的な取組みを行っていることの証左であると思われる。

その他、インターンシップへの取り組み、FD活動への積極的かつ実際的な取組み等、地道な活動を推進している。

### Ⅲ. 教育の実施体制

#### 【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数を下表を例にして作成して下さい。

学 科	専任教員数					平成21年5月1日現在 (人)				
	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	〔ハ〕	備考
	教授	准教授	講 師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
ビジネスラ イフ学科	9	3	—	—	12	7	—	—		
こども 学科	6	7	5	—	18	11	} 5			
小 計	15	10	5	—	30	18	—			
〔ロ〕						—				
合 計	15	10	5	—	30	18	5			

(2) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員を採用しようとする場合、規定上は「学長が推薦」することとされているが、具体的には学科長始め各専門分野の教員と幅広く相談し、最適と考えられる人材を求めている。その資格審査については、「教員資格審査規程」に基づき主査1名、副査2名で構成する資格審査委員会を設置し、審査を行い、学科会議で実質的に審議し教授会で決定している。

教員の昇任は、同規程に基づき当該担当科目又はその関連科目の専任教授が学科長を通じて学長の承認を得て推薦を行うこととされており、資格審査委員会の設置等については採用の場合と同じである。

昇任要件は、原則として教授については、7年以上の准教授経験を有し、准教授以降に論文5編以上の研究業績があること。准教授については、3年以上の講師経験を有し、講師以降に論文3編以上の研究業績があること。講師については、博士又は修士の課程を修了し、3年以上の助手経験を有し、助手以降に論文1編以上の研究業績があることとなっている。

なお、人事案件の教授会は候補者の昇任資格以上の資格をもつ教員全員によって構成され、議決は他の議案と異なって「出席者の3分の2以上」の賛成をもって成立する。

(3) 教員の年齢構成について下表を例に現状を記載して下さい。

専任教員等の年齢構成表 (平成 21 年 4 月 1 日現在)

区 分	年齢ごとの専任教員数 (助教以上)							助手等の平均年齢	備考
	70 以上	60~69	50~59	40~49	30~39	29 以下	平均年齢		
合計人数 (30 人)	—	6	11	6	6	1	50	—	
割 合	—	20%	36.7%	20%	20%	3.3%			

〔注意〕 1. 上表の助手等とは、助手に加えて助手以外の者で教育研究活動に直接従事する教職員（副手、補助職員、技術職員等）を含む。

(4) 専任教員は、(a) 授業、(b) 研究、(c) 学生指導、(d) その他の教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また、上記 4 つの分野の業務取り組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）程度の教員の担当コマ数（担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む）、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

専任教員の授業担当コマ数は、平成 20 年度が平均で 6.25 コマ（平成 18 年度 6.23 コマ、平成 19 年度 6.23 コマ）であり、決して少なくないコマ数である。また、授業以外においても F D 活動への参加等、授業改善への取り組みも熱心に行われている。

研究面では、科学研究費補助金を始めとする外部の研究資金の導入については、必ずしも活発と言えない状況であるものの、研究紀要への論文執筆等の意欲は相当程度高いと考えている。

最近では、教育・研究という高等教育機関としての本来の面ばかりではなく、学生指導、生活指導の面も特に重要性を増している。高等学校までの間に十分な指導を受けてこなかった学生もまれではなくなっており、しつけや学習意欲の喚起等の人間教育も、教員の役割として少なくない比重を占めている。このような全人教育や近年特に問題が顕わになってきている禁煙教育等の指導についても、教職員が積極的に取り組んでいるところである。

「地域社会に開かれた大学として、積極的に社会貢献を行うこと」が本学の特色の一つにあげられるが、本来の業務を行った上、更に公開講座や「こども造形教室」等の業務に取り組んでいる教員の姿勢は、学生にとって適切な手本となっている。

なお、研究成果の出版に対する補助制度や、共同研究助成制度を活用した研究も盛んである。



(5) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

本学は小規模大学であるが、専任教員については設置基準上の必要数を大幅に上回った人数を配置しており、可能な限り教育・研究面で実績があげられるよう配慮している。また、教員の採用にあたっては、学生にとって魅力のある教育を行い、かつ研究面でも貢献のできる中堅の教員の採用に努めている。

なお、教員と事務職員が相互に密接に協力しながら取り組んでおり、授業補助等についても事務職員が積極的に対応し協力しており、情報機器の維持・管理等の専門的な業務についてはアウトソーシングを行うなど、現実的な対処を行っており、本学の教育・研究支援業務は円滑に遂行されていると考えている。

(6) 2以上の校地（校地が隣接していないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

該当なし

#### 【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を下の表を例に作成して下さい。  
校舎について、まず短期大学設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途(室名)、専用・共用の別を示した各階の図面を準備しておいて下さい。なお、主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

校舎・校地一覧表

(平成21年5月1日現在)

区分	収容定員	校舎(m <sup>2</sup> )			校地(m <sup>2</sup> )		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
千葉経済大学短期大学部	700人	5,150	11,180	6,030	7,000	26,947	19,947
千葉経済大学	1,000人	5,619	12,551	6,932	10,000	35,753	25,753
計			23,731			62,700	

※基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とします。

### 校地基準面積

学 科 名	基 準	面積 (㎡)
ビジネスライフ学科	収容定員 300 名×10 ㎡	3,000
こども学科	収容定員 400 名×10 ㎡	4,000
計		7,000

### 校舎基準面積

学 科 名	面 積 (㎡)	基 準
ビジネスライフ学科	1,800	短大設置基準第 31 条関係 別表第二 ロ
こども学科	3,350	短大設置基準第 31 条関係 別表第二 イ
計	5,150	

(2) 校地・校舎について他の学校との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

総合体育館並びに図書館を大学と共用している。体育館については本学独自の体育館も保有しているため、共用の体育館については大学の授業やクラブ活動の実施スケジュールと調整することで十分に対応できている。

また、図書館についても大学、短期大学部双方の学生が利用するために十分な座席数を有している。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。なお、2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

平成 16 年 3 月にコンピュータネットワークの再構築を行い、それまで学科単位で個別のネットワークを構成していたものを全学共通のネットワークに再編成した。

それに伴い、校舎間を光ケーブルで連結し高速化（1 ギガ）を実現するとともに、プロバイダーへのネットワークも高速化を図って利便性を大幅に向上させている。

さらに、ネットワークについては VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）を採用しており、学外からも学内のデータを取り扱うことができる環境にある。

また、パソコンについても 3 年単位で更新を行っており、できる限り最新の環境で情報機器を扱えるように配慮している。

### パソコン設置状況（台数）

平成 21 年 5 月現在

1 号館 401	1 号館 402	電算棟 C11	電算棟 C21	電算棟 C31	電算棟 C32	多目的 演習室	こども 実習室	総設置 台数
42	5	50	42	42	8	11	19	219 台

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお、機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

大教室にはプロジェクターや書画カメラ等の教育のための機器・備品が整備されている。機器・備品については事務職員が管理を行い、適宜最適な状態に保っている。

(5) 校地、校舎の安全性へ、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

本学は住宅地の中に所在しており、校地・校舎の安全性の面で特に問題はないと思われる。

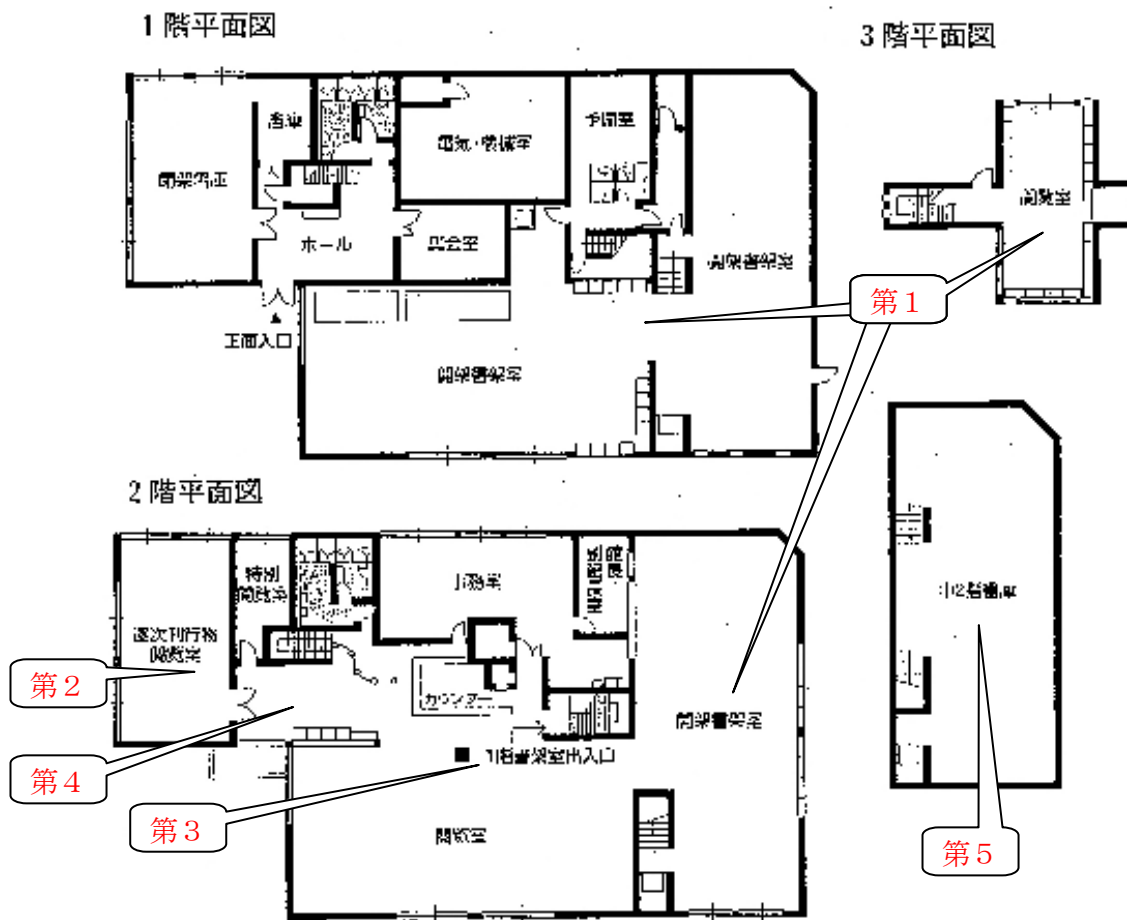
障害者への対応については、現在のところ受け入れの実績がないため、特別な施設・設備は用意されていないが、授業を受ける環境については、教職員の努力によりできる限りの配慮がなされるような体制になっている。

2号館入口には、バリアフリーの傾斜をつけている。

【図書館・学習資源センター等(以下「図書館等」という)について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、図書等購入システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお、図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

①全体の配置図



図書館の施設は3階建てで、各階の閲覧席（合計200席）と5つの資料エリアとからなる。第1は図書エリア、第2は雑誌・新聞エリア、第3はAVエリア、第4はマルチメディア・エリア、第5は保存エリア（集密書庫）である。

資料エリアは、一部の貴重図書などを除き、基本的に開架方式をとり自由な雰囲気で見られる環境になっている。2階中央部に総合カウンターを配し、多様なサービスを提供している。

①年間予算、職員数

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
年間予算 (内資料費)	70,440,000 円 46,312,000 円	51,316,000 円 27,450,000 円	48,099,000 円 24,390,000 円
専任職員数 (内司書有資格者)	4 人 3 人	3 人 2 人	3 人 2 人

平成 15 年度以降、データベース・雑誌・新聞等の見直しをして電子化を図っている。データベースでは、平成 18 年度は EBSCO、平成 19 年度はジャパンナレッジ、電子ジャーナルでは、平成 21 年度は NBER Working Paper Series 及び Strategic Management Journal の 2 誌を導入し、幅広く利用されるよう整備している。

②図書等購入システム

図書館収集基本方針に沿って、学生、教職員、図書館から出された購入申込み資料を図書館委員会で選定し購入する。図書館委員会は、短大部と大学の専任教員から選出された委員で構成されている。

③図書等廃棄システム

蔵書の累積に伴い収容能力 (23 万冊) が限界に近づきつつあり、保存資料の見直し、館内資料の再配置が課題になっている。資料の除籍、抹消については資料収集管理規程で決められているが、資料価値の判断等を含む廃棄基準については、原案はすでに出来ており、廃棄の資料整理を進めている段階である。

④情報化の進捗状況

図書、雑誌等の紙媒体と合わせて電子化した資料の比重が増え、本学でも電子ジャーナルや新聞のデータベースを中心に 8 種類のオンラインデータベースを導入し、前からの CD-ROM 及び DVD-ROM 等によるデジタル情報のサービスを拡張した。また、新しい情報環境に適応するために、平成 18 年 4 月には図書館システムのリニューアルを行った。

(2) 図書館等に備えられている蔵書数 (和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等) を下表を例に作成して下さい。

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV 資料
冊 (種)	187,541 冊	26,779 冊	423 種	4,143 点

千葉経済大学と共用。

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

インターネットを使ったデジタル情報の利用が高まる一方、図書の利用が相対的に低下してきている。高品質な図書情報を再認識してもらうことも考慮し、以下の活用促進策をとっている。

授業要項に書かれた参考書を年度当初に揃え、教員が担当科目に対して指定した講義用図書も合わせて整備している。さらに教員と連携をとり、館内での演習授業実施や図書館員による資料検索指導を授業時間内で実施し、資料を実際手に取って利用する機会を作っている。あわせて利用条件を見直し、貸出冊数の上限を5冊から10冊へと増やした(平成16年度)。こうした活動や改善策により図書貸出冊数も増加した。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

地域連携として、千葉市図書館情報ネットワーク協議会と千葉県大学図書館協議会に加盟している。また、館種別連携として、私立短大図書館協議会、私立大学図書館協会及び日本私立短期大学協会(図書館情報委員会)に加盟をしており、情報交換、研修会への参加、相互協力を行っている。また、資料を中心とした相互利用として国立情報学研究所のNACSIS-CAT/ILL(目録所在情報サービス)に参加している。

図書館ホームページでは各種のお知らせを情報発信し、学外者への地域開放情報や図書館主催講演会の開催案内等も記載している。

今後は図書館システムを拡張し、利用者の要望に対して、きめ細かい双方向性のあるサービスを実施していきたい。

#### 【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

外国人教員は1名、専任英語教員の面接をふまえ、教育指導力のある者を非常勤講師として採用している。

## IV. 教育目標の達成度と教育の効果

### 【単位認定について】

(1) 次の「単位認定の状況表」を例に、単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。  
なお、この表は平成 20 年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

単位認定の状況表 巻末資料⑤

なお、本学の成績評価の基準は、次のとおりである。

合格……「優」(80 点以上)、「良」(70 点以上 79 点以下)、「可」(60 点以上 69 点以下)

不合格…「不可」(59 点以下)

「不可」になるものは、試験、レポート等により合格点に達しないもののほか、授業出席日数が授業回数の 3 分の 2 以上を満たさずに定期試験受験無資格となる場合、定期試験等を欠席した場合である。

成績評価については、科目によって「優」「良」「可」「不可」の割合が異なっており、また同一授業科目であっても、担当教員によってその割合が異なっている。

ただし、同一の授業科目を複数の教員が担当した場合、教員間で評価基準が異なることを避けるため、同じ基準で成績評価を行うことにしている。

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

科目の性格によって異なるものであるが、定期試験、レポート、出席状況などを総合して単位認定が行われており、おおむね妥当な方法ではないかと考えている。現在、各教科についての具体的評価方法はシラバス上に明示されており、学生は科目履修上これを有効に利用しているものと思われる。またフィールド制を採用しているため、学生が自分の進路や適性に応じて自由に科目選択できるようになっているので、科目履修状況は許容できる範囲内のものであると考えられる。また平成 17 年度より、後期履修科目の変更を認め、これにより学生の後期履修科目選択の自由度は拡大し、また 2 年次生の卒業単位取得の選択肢を拡大することとなった。

平成 20 年度卒業生については、卒業時までには 1 学生につき平均約 71 単位を取得している。また全科目の履修申告総数に対する評価の割合は、「優」47%、「良」25%、「可」19%、不合格 10%である。「優」の取得率は良好であり、まじめに受講していると思われる。「優」の高取得科目の特色としては、実技的なものに多く見受けられるが、理論科目においても高取得のものがみられるのは、教員による指導上の工夫や指導理念の差異にあると思われる。

担当教員による評価の現状はおおむね適切性、公平性、客観性が保たれていると考え

られる。しかし学生の現状について一層客観的に分析し、学科の教員全体で評価方法についての共通認識を深めてゆく必要があると考える。

### <こども学科長>

学習の評価について重要なことは、妥当性、公正性、客観性の確保である。また、評価の手段である試験・レポート等は単に評価のためだけでなく、それらも教育の一環と考え、授業内容の理解がさらに深められ学生が成長する機会として活かすことである。これらが確保され達成されるよう適宜促し、教員間でも助言し合っている。

妥当性の確保については、授業の目的に応じ、試験、レポート、実技試験、発表等と評価方法が工夫されている。同一科目の複数科目を複数教員で担当する科目での評価方法についての実践的研究もある。また、再試験制度の利用により、不合格の学生が合格のレベルに到達できるよう、学習内容・学習方法の指導がなされている科目もある。

数年前からは、シラバスに評価の方法も記載されるようになり、学生が学習する際に修得つけるべき能力についての理解、授業の目的の理解にも役立っている。

平成20年度卒業生は、卒業までに1学生につき平均約97単位を取得している。全科目の履修申告総数に対する評価の割合は「優」49%、「良」31%、「可」15%、不合格5%である。「優」の取得率は高く、よく学習していると言える。「優」の高取得率は、実技・発表・レポート等の試験とは異なる評価方法をとることが多い実技・演習系の科目が、多く開講されていることにもよるかもしれない。逆に、不可の割合の多い科目は、論理的・理念的・概念的内容の講義科目であり、本学科入学者の学習能力の傾向を表していると言える。

<b>(3) 学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。</b>
--

学科の目的、性格により、単位認定や評価のあり方に差異が生じることは当然ありうることを考えている。こども学科については、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士という極めて責任の重い専門家を養成し、また、学生の目的に対応して様々な資格を取得させる必要があるとの観点から、一人一人の学生の資質や目的を生かすよう、厳しく、しかし愛情を持って教育することが肝要と考えている。単位認定や評価のあり方も、その趣旨に沿ったものとなるよう日頃から教授会や学科会議等で、全教員の理解を得るよう努めているところである。

ビジネスライフ学科については、一人一人の学生がそれぞれの適性や進路に応じて大幅な科目選択が可能となるように設定しており、専門的な資格取得を目指す者、建設的な将来設計のもとに健全な家庭を築くことを目指す者など様々であり、単位認定や評価についても許容できる範囲内で相当程度の柔軟性があっても良いのではないかと考えている。

しかしながら、そのような学科の特性に配慮しつつも、単位認定や評価に当たっては、適切性、公平性、客観性の確保が極めて重要な要件であることは言うまでもないことであり、定期的に全授業科目の単位認定、評価の実態の一覧表を全教員に配布し、主体的



な改善を求めている。

いずれにしても学ぶ意欲を高めることが指導の根幹におかれるので、後述する授業事例研究会では、その辺の教授努力について意見が交わされることが多い。

### 【授業に対する学生の満足度について】

(1) 各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

期末もしくは年度末に行う授業評価アンケートで、各授業の満足度を調査している。授業評価アンケート調査については、「Ⅱ. 教育の内容、【教育改善への努力について】(1) 学生による授業評価について」に掲載してあるが、授業の満足度についてはのべ回答数 5,749 のうち、「非常に満足」あるいは「満足」と回答したものが 79%となっている。平成 20 年度に大学生生活全体についての満足度調査を学期末に実施しており、その調査結果は次の通りである。なお、表中の「前回」とは平成 20 年度前期末である。

平成 20 年度 満足度調査結果

学科名	回答者数	(率)	学年	設問1	設問2-1	設問2-2	設問2-3	設問2-4	設問2-5	計(学科毎)
ビジネスライフ学科	126	85%	2	66.51	61.98	67.78	85.08	63.49	62.22	67.84
(前回)	101	68%		64.36	59.90	64.16	82.18	62.57	-	66.63
ビジネスライフ学科	120	79%	1	56.42	55.92	56.50	81.17	57.08	-	61.42
(前回)	126	81%		56.75	53.57	52.62	80.16	54.05	-	59.43
こども学科(初教)	63	89%	2	71.11	64.44	66.67	92.22	82.06	73.02	74.92
(前回)	64	91%		69.38	65.78	69.53	91.72	81.88	-	75.66
こども学科(初教)	43	73%	1	58.60	55.81	59.30	89.07	80.00	-	68.56
(前回)	49	83%		57.76	54.49	53.47	88.16	64.29	-	63.63
こども学科(保育)	108	85%	2	63.61	59.81	61.11	86.57	71.67	66.48	68.21
(前回)	122	95%		57.79	55.90	62.54	88.77	72.87	-	67.57
こども学科(保育)	116	78%	1	50.43	50.69	52.16	87.84	71.21	-	62.47
(前回)	139	94%		61.44	60.00	57.99	86.83	63.60	-	65.97
平均(設問毎)	576			61.11	58.11	60.59	86.99	70.92	67.24	67.49
(前回)	601			61.24	58.27	60.05	86.30	66.54	-	66.48

質問内容 設問 1 本学に入学したことをどの程度満足していますか。  
 設問 2-1 授業について  
 設問 2-2 先生との出会い  
 設問 2-3 友人との出会い  
 設問 2-4 事務職員の対応  
 設問 2-5 2年間の自分の成長への満足 (2年次生のみ回答)

\* 設問欄の数値は、各設問について 100%~0%の 11 段階で該当する満足度に○を付け

させ、その回答数を加重平均したものである。

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

本学に入学したことについては、おおむね満足度を示しているが、1年次生では授業や教員との出会いについての満足度にかなり低い評価がなされており、これは重要な検討課題と考えている。なお、1年次生より2年次生のほうが満足度が高くなっており、この点は学生が当学科の方針や教員の指導に対して一定程度理解を示したものと考えられる。

しかし、全体としてはかなり厳しい学生の評価であると受けとめ、学生の興味や関心を引き出すような授業方法の改善や個々の学生との対話に努め、きめの細かい指導を行う必要性を痛感している。その一環として、ここ数年にわたり教務部では、各教員による出席状況報告をもとに、ことに出席ないし学習成績不良者を中心に、これら学生とのコンタクトを絶えずとることによって、授業に対する指導や生活上の指導を含め、少しでも学業に満足いくよう配慮している。

その成果は次第に現れており、設問1 本学に入学したことについて、設問2 授業について、設問3 先生との出会いについて、平成18年度、19年度、20年度にわたりそれぞれの数値を見るに、依然として1・2年次生間の数値差異は残るものの、次第に改善されつつある。また2年次生にあっては、平成20年度後期満足度調査において、総合満足度は67.84%と過去最高数値を示した。これら満足度調査結果については、これを真摯に理解したうえで学生指導上生かしていかなければならないと考えている。

#### <こども学科長>

満足度調査結果については率直に受けとめ、教育改善のために活かさなければならないと感じている。そして、目先の満足度にとらわれ、教育の質を落とすことにならないよう、満足の質を高めることも視野に入れなければならない。

満足度調査の結果を見ると、概して本学に入学したことに対する満足度は1年次前期終了時から後期終了時にかけて低下し、2年次前期終了時から後期終了時にかけて上昇している。1年次は、入学者の期待とのずれや、大学の授業への不慣れ、また、一般教養科目や原理的・概論的な科目が多いことも、満足度に影響していると考えられ、その後は、大学の授業、本学の教育に慣れてその良さが分かってくることによって、満足度が上昇していると考えられる。

2年次の最後に学習の成果を振り返った時点では、2年間の成長への満足度はさらに高くなっている。

この傾向は、満足度調査開始以来変わっていないが、例外的に保育コースの平成19年度、初教コースの平成20年度で1年前期の満足度が低く、後期にかけて上昇している。保育コースの平成19年度の場合は、その年度入学定員を50名増やしたが、これに

対する教育活動の対応が十分とは言えなかったのかもしれない。しかし、後期の満足度は前年度並みになっている。初教の場合はその理由として、志願時の第2志望への合格者が多かったことが考えられる。

しかしながら、満足度の数値は十分に高いというわけではなく、またこのところ満足度は全体的に下降気味である。しかし、個々の授業の学生による評価は、逆に年々高くなっており、平成20年度後期は満足度を含め9項目中6項目で過去最高点を達成している。本学全体に対する満足度が低い理由を究明する必要があるとともに、さらに質の高い授業・高い教育のために一層の改善を進めなければならない。

特に、1年次生へは特別な配慮が必要であると考えられる。最近の入学生の能力、興味の変化に対応し、特に幼稚園教諭・保育士を目指す学生（幼児と接することに最大の喜びを感じるような学生）に、一般教養科目また原理的・概論的な科目に如何に興味を持たせるかが課題となろう。

### **(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。**

入学してくる学生の学力や目的意識が多様化してきており、それに伴い授業の困難度が増してきていることは否定しようのない事実である。

しかし、学生の満足度調査の結果では、授業に対する満足度は約67.5%となっており、しかもごくわずかではあるが上昇している。

短大教育の大きな課題として、学生の学習に対する意欲や学習の方法、更には卒業後の進路まで見すえて目的意識を確立するための指導が必要不可欠なものとなっている。つまり学生の興味や関心を引き出し、自分の進路を考えさせるような授業の実践が極めて重要である。

単に専門の知識を伝達するだけでは成り立たないこれからの授業のあり方については、教育方法や指導方法を体系的に学んでいない大学教員にとって決して容易なことではない。そのためにこそFD活動が極めて重要であると考えており、結果が出るのには少し時間が掛かるかも知れないが、今後とも一層推進していきたい。少しずつではあるが、5年以上に渡り継続してきたFD活動の成果が現れつつあると感じている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の退学、休学、留年等の数を、次の表を例にして学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

ビジネスライフ学科の退学者等一覧表 (平成21年3月31日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	187	165	150	
うち退学者数	23	15	11	
うち休学者数	4	3	4	
休学者のうちの復学者数	2	2	1	
うち留年数	4	3	3	
卒業生数	158	143	—	

こども学科の退学者等一覧表 (平成21年3月31日現在)

区分	18年度入学	19年度入学	20年度入学	備考
入学者数	212	215	206	
うち退学者数	11	18	18	
うち休学者数	6	5	5	
休学者のうちの復学者数	6	3	0	
うち留年数	6	5	5	
卒業生数	193	192	—	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

近年、休学者は横ばい、退学者は減少の傾向にある。退学・休学の理由としては、進路変更が特に多く、次に多いのが経済的事情等である。

そのような学生の指導については、こども学科では相談教員制を敷いて、全学生が教職員と身近な問題も容易に相談できる体制を整えている。また、ビジネスライフ学科でもゼミ履修者はゼミ担当教員に、ゼミを履修していない学生については相談教員を決めて、学生に対してきめ細かいケアが行えるようにしている。

なお、経済的な事情を理由とするものへの対応としては、学園独自の学資貸付制度が設けられており、また、健康面の問題や精神面での悩みを持つ学生に対しては、保健室

及びカウンセリングセンターが学外の専門医と連携しながら対応している。  
平成 19～20 年度の退学・休学理由別人数割合は、次表のとおりである。

### ビジネスライフ学科の退学・休学理由別人数割合

#### 休学

	平成18年		平成19年		平成20年	
進路検討	16	(76.2)	15	(83.3)	15	(78.9)
経済的事情	3	(14.3)	1	(5.6)	0	(0.0)
体調不良	2	(9.5)	0	(0.0)	1	(5.3)
仕事の都合	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
大学受験	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他	0	(0.0)	2	(11.1)	3	(15.8)
合計	21	(100)	18	(100)	19	(100)

#### 退学

	平成18年		平成19年		平成20年	
進路変更	3	(11.5)	2	(10.5)	1	(4.5)
経済的事情	1	(3.8)	0	(0)	0	(0)
体調不良	2	(7.7)	2	(10.5)	0	(0)
就職のため	12	(46.2)	11	(57.9)	17	(77.3)
勉学意欲喪失	2	(7.7)	3	(15.8)	1	(4.5)
その他	6	(23.1)	1	(5.3)	3	(13.7)
合計	26	(100)	19	(100)	22	(100)

### こども学科の退学・休学理由別人数割合

#### 休学

	平成18年		平成19年		平成20年	
進路検討	8	(61.5)	13	(72.2)	10	(50.0)
経済的事情	2	(15.4)	1	(5.6)	3	(15.0)
体調不良	3	(23.1)	2	(11.1)	1	(5.0)
仕事の都合	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(5.0)
大学受験	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
その他	0	(0.0)	2	(11.1)	5	(25.0)
合計	13	(100)	18	(100)	20	(100)

#### 退学

	平成18年		平成19年		平成20年	
進路変更	1	(9.1)	3	(18.8)	5	(18.5)
経済的事情	0	(0.0)	1	(6.2)	2	(7.4)
体調不良	2	(18.1)	1	(6.2)	1	(3.7)
就職のため	5	(45.6)	3	(18.8)	16	(59.3)
勉学意欲喪失	2	(18.1)	7	(43.8)	3	(11.1)
その他	1	(9.1)	1	(6.2)	0	(0)
合計	11	(100)	16	(100)	27	(100)

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

休・退学者数はここ数年減少傾向が見られる。しかし、学生の目的意識の多様化から、進路検討を望む者は依然多い。このうち退学を希望する者には、可能な限り休学を勧めその期間に将来悔いが残らないよう十分検討するよう指導しているため、「進路検討」が休学の理由として最多である。休学期間の終了とともに、退学を決意するものの中では「就職のため」をその理由としてあげる割合が最も高く、平成 18 年度 46%、19 年度 58%、20 年度 77%と年々増加している。学業より職場で働きたいとする者もいるが、近年の急激な経済状況の悪化もこの事態の大きな要因となっていると思える。

休・退学を希望する学生に対してはゼミの担当者や教務部教員が個別に事情を聞き、明確な目的や計画などについてよく質すようにしており、また保護者や保証人の同意を

得るよう指導している。またここ数年は教務部を中心に、ここに至る前に、つまり学期中にたえず学生の欠席調査をきめ細かく実施し、欠席の多い学生には事前に面接し事態の回避を図っている。そのためか、留年者数も減少傾向にある。

#### <こども学科長>

こども学科の入学生は卒業後の進路が明確で、免許状・資格取得を目的としているが、明確な目的意識を持たないまま入学してきている学生、また、目的は明確でも教職に就くための学習に対する具体的イメージに乏しかったため、入学後、不適応を起こす学生も少数存在する。このような学生が、本学科の学習に意義を見出せなくなったとき、退学を希望することがある。そのような学生に対しては、その意思が一時的なものでないかどうか確認したり、自分の進路について自ら十分検討できるように休学を勧めたり、資格等を取らないでの卒業、一般就職を勧めるなどして指導している。しかし、それでも退学に至る学生が4%程度（本学科全学生を母数）いる。

休学希望者も4%程度存在し、その理由は様々で、進路検討、経済的事情等、多様であるが、そのつどの理由に応じて丁寧に指導している。留年の可能性のある学生に対しては、早期に欠席状況を把握し個別に指導するのが肝要と考える。

退学者・休学者の平成18年度から19年度にかけての実数の増加は本学科の総定員数の増加によるもので、割合における変化はない。平成20年度に「就職のため」による退学者が増加しているが、理由は不適応と経済的事情（不景気による）の複合的なものにより就職を余儀なくされたためと考えられる。また、保育コースの実習の時期の変更（一年次後期終了後へ）による影響も考えられるので、今後2～3年の推移を見守りたい。

#### (4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

学生の学力の多様化、目的意識の多様化に伴い、休・退学の態様も多様化してきている。

進路変更については、積極的に人生の進路を考え直し、新たな可能性にチャレンジするという点では積極的に評価すべきだが、明確な目的や計画もないまま進路変更を理由に退学する場合も少なくないため、十分なガイダンスが必要である。

経済的事情や学業・学校生活不適応、精神的理由によるものについては、極力無くすための努力が必要と考える。経済面については、学園独自の学資貸付制度を設けるなど対策を講じている。

また、不適応や精神的理由によるものについては、従来から保健室が重要な機能を果たしてきており、利用者も増加してきている。平成13年にはカウンセリングセンターを設置し、専門のカウンセラーが学生の悩みを聞き、時間を掛けてサポートしていく態勢が整備された。

【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3) (13 ページ) で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）を学科等ごとに示して下さい。

本学学生の資格取得は、授業科目と関係している資格が多く、授業科目と別に資格取得講座を開設することはしていない。なお、授業科目と関連している資格取得については、関連授業科目の担当教員が個別に指導を行っている。

本学学生が取得する主な資格は、簿記検定（3級、2級）、秘書技能検定（3級、2級、準1級）、ファッション販売検定（3級、2級）、ファッションビジネス能力試験（3級、2級）、実用英語能力検定（3級、準2級、2級）、日本語文書処理（3級）、シスコ技術者認定資格等である。これらの資格試験による合格者数は、次のとおりである。

資格試験の合格者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
簿記検定(3級)	9	8	11
簿記検定(2級)	0	0	1
秘書技能検定(3級)	82	81	57
秘書技能検定(2級)	36	32	28
秘書技能検定(準1級)	2	2	3
秘書技能検定(1級)	0	0	0
TOEIC Bridge	0	1	0
ファッション販売能力検定(3級)	27	21	18
ファッション販売能力検定(2級)	1	2	5
ファッションビジネス能力検定(3級)	18	9	11
ファッションビジネス能力検定(2級)	0	1	5
ファッション色彩検定(3級)		13	19
ファッション色彩検定(2級)		0	4
日商PC検定 文書作成 (3級)	25	24	25
日商PC検定 文書作成 (2級)	2	4	3
日商PC検定 データ活用 (3級)	3	2	5
日商PC検定 データ活用 (2級)	0	0	0
ビジネス文書検定 (3級)	2	0	0
ビジネス文書検定 (2級)	9	0	0
シスコ技術者認定資格	2	0	0
SJC-P/SUN認定Javaプログラミング	1	0	1
ファイナンシャルプランナー(3級)	3	6	10
ファイナンシャルプランナー(2級)	0	0	1
AFP認定研修修了者	21		
リトミック (2級)		13	47
リトミック (1級)		60	78
レクリエーション・インストラクター	50	52	76

上記の本学における資格の取得状況は、各関連授業科目の担当教員が受験を勧めて申し込みがなされ、合格通知が大学に送られてくるものの集計である。

前述の資格のうち、秘書技能検定では3級、2級とも毎年検定合格者が多い。また、ファッション販売能力検定(3級)の合格者も毎年10名を超えている。一方、簿記検定、実用英語技能検定などは、関連授業科目が存在するにも関わらず、合格者が少ない。

本学のビジネスライフ学科入学者の多くは、高校時代に簿記やコンピュータ関連の資格を取得して来ている。そのため、社会で必要な知識・技能は備えているといえる。

なお、大学独自の資格取得講座としては、簿記、秘書、販売士、基本情報処理技術者等、社会で有用とされている資格取得の支援を今後は検討し、資格取得講座の学内開催や、資格取得者に対する報奨制度なども検討したい。

## (2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

### <ビジネスライフ学科長>

金融機関への就職を希望する学生にとって、取得しておくことが有利な資格の一つとして「証券外務員」資格がある。証券外務員は、日本証券業協会の認定する資格であり、一種・二種がある。一種は日本証券業界の役員・職員であることが条件とされているところから、本学科では二種外務員の資格取得を目指したい。試験は、全国主要都市の協会が指定する会場で年間を通じて受験することができるので、受験者の希望に応じ逐次課外講座を開講することができる。なお、当該資格試験内容に関わる授業科目としては、証券市場論、銀行論、ファイナンシャル・プランナー等が挙げられる。他にも課外講座として開講すべきかと思われるものもあるが、関連する授業科目との整合性をはかる必要もあり、今後継続的に検討して行きたい。

### <こども学科長>

小学校教諭を目指す生徒は、近年、一種免許状取得を目的とし四年制大学を目指す傾向が強まっている。また、小学校教諭養成を行う大学も増加していることにより、小学校教諭志望の短大入学者が減少している。しかし、小学校教諭養成に関し、短大には短大特有の良さがあり、また本学には他に誇れる伝統がある。

本学において小学校教諭養成を継続するためには、小学校教諭志望の入学者数をある程度確保することが必須の条件である。この方策として専攻科を開設し学位授与機構寄りの学位を取得させ、併せて小学校教諭一種免許状を取得させることについて検討を始めている。この方式で免許状を取得させることは、実践力を短期で身に付けさせた上で専門的に深く学ばせるという点でこれまでとは異なるタイプの有能な教員を養成することになり、社会的にも価値がある。

## 【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職(当該学科等で学習した分野に関連する就職)の状況(専門就職数、割合等)について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。



### <ビジネスライフ学科>

ビジネスライフ学科では、一人一人が自らに適した職業に就職しているため多岐に分かれている。産業別に分けると卸売・小売業が一番多く、続いてサービス業の順となっている。

業種別就職状況(ビジネスライフ学科) (人)

	卸売・小売業	サービス業	情報通信運輸業	製造業	金融・保険業	飲食・宿泊	その他	合計
18年度	55	16	11	5	4	3	14	108
19年度	53	21	12	11	3	2	12	114
20年度	17	18	12	12	6	⑤	11	81

### <こども学科>

こども学科では、小学校教諭及び幼稚園教諭免許状並びに保育士資格が取得できるため、多くの学生が教職及び保育士を志している。小学校、幼稚園、保育園に就職できなかった者も、臨時職員への登録や学童保育等をとおして子供たちと接する機会を得ている。

専門就職状況(こども学科) (人)

年度	小学校	幼稚園	保育園	その他教員関連	合計
18年度	0	68	35	12	115
19年度	1	77	32	19	129
20年度	3	73	55	15	146

(2) 卒業生に対する就職先(専門就職に限らない)及びその他の進路先(編入先等)からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

### <ビジネスライフ学科長>

本学科では、学生一人一人が自らに適した職業を選択しており、多くの学生は一般的な事務職に就職していて、学科として就職先が一定しているわけではない。これら状況のもと、学生自らの夢を確かめさせるべくインターンシップを奨励し、誠実な学生を企業へ派遣している。実習を終えた学生は、「非常によかった、貴重な体験であった」と確信を深めているが、受け入れてくれた企業側での学生への評価は決して甘いものではない。単なるノウハウだけの教育や資格取得のための教育ではなく職業意識をもち、社会常識やマナーにも優れ、どのような状況におかれても柔軟に対応できるような学生を育成して行きたいと考える。

平成18年度の就職内定率は前年度に比較して大幅な上昇を示し、82%にも達した。これは全国の短期大学就職内定率(文部科学省平成19年3月13日発表)を13%上回

り、平成 19 年度はさらに 85.7%にまで達した。平成 20 年度に入るや世界同時不況に直面しつつも、同比率は約 87%を維持している。上記のごとき数値は、学生のみならず、教職員間の綿密な努力が社会的に受け入れられたものと確信している。

#### <こども学科長>

組織的に調査を行っているわけではないが、様々な機会に就職先の幼稚園関係者に伺うと、他の幼稚園教諭養成校の卒業生と比べて特に即戦力として特に優れているわけではないが、頑張りやで、仕事熱心で、誠実であるということが、共通に指摘される。人間性の点で評価されていると言えよう。

小学校就職者については、こどもの中に溶け込みこどもと共に熱心に活動し、同僚の教員仲間とも良い人間関係を築き信頼も厚いとの評価である。

このように人間性についてはある程度の評価を得ているが、学科が目標としている即戦力としての教育技術、現場に出てからさらに成長していくための能力をより一層修得させるために努力を重ねて行きたい。

#### <学長>

系統立った調査の結果ではないが、企業の方々と様々な機会に本学の卒業生についての評価を伺うと、いわゆる偏差値的な学力については全ての学生が決して高いとは言えないが、意欲ややる気、積極性等については一定の評価を頂いていると考えている。

就職先としては、会社の知名度や大企業志向に走ることなく、地道に地元の経済の活性化に貢献し、地域社会を支えることのできるような人材を養成するべく努力しているところであり、地元の企業等から一定の評価を得ていることは嬉しいことであり、意を強くしている。

本学としては、就職先で即戦力となるための実学教育やインターンシップを一層充実するとともに、就職観や職業観、自らのキャリアをデザインする能力、就職後も自らの人生を切り開いていくため研鑽し続ける資質等の育成に努めていきたい。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート」(卒業後評価等)等を実施している場合はその概要とその結果を記述してください。また、教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

ビジネスライフ学科では「キャリア支援・卒業生アンケート」を平成 19 年 12 月から 2 月にかけて行った。目的は、卒業後、在学時に描いた自分の夢と合致した道に進んでいるか、本学科での取り組みが社会でどのように有効性を発揮しているかを追跡調査することであった。対象学生は、平成 15 年・16 年・17 年入学制の 3 期にわたるものである。各期について、「卒業時に就いた職業を現在も続けていますか」の問いには約 65%の者が「続けている」と回答している。また「本学で学んだことが今の仕事に役立っているか」という問いには、約 70%が「役立っている」と回答し、「どんな科目が役立っているか」

るか」については、パソコン・秘書・簿記等をあげている。

また、平成 20 年 9 月・12 月、平成 21 年 2 月の 3 度にわたり、「キャリアデザインをコアとする修学支援策にともなう卒業生座談会」を実施した。実施対象学年はアンケートの場合と同様、平成 15・16・17 年入学生であった。調査の中心的項目もアンケートの場合と同様である。座談会出席者は、教員（学科長・教務副部長・学生部長・就職部長・入試対策委員長）5 名であり、卒業生も各年度 5 名であった。教務・学生・就職・入試の各教員から順に質問し、卒業生がそれに対応する形で進めた。

「本学で学んだどのような科目が仕事に役立っているか」については 3 回とも、秘書学・パソコン・経理・文書能力と答えている。また「この先どんな勉強が必要か」との問いには、コミュニケーション能力・フリーターキング能力の養成をあげている。その他の発言としては、専門学校卒業生と短期大学卒業生との差異についての指摘があり、短期大学卒業生は基礎があって専門的な知識が得られるところが良いとしている。

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

総合的な見地から、本学科の社会的な評価は相応のものがあると考えられる。学生数は、平成 18 年度は 385 名、平成 19 年度は 354 名、平成 20 年度は 317 名といずれも募集定員の 300 名を超えている。

その一つの背景として、平成 19 年度の文部科学省による学生支援 G P 「キャリアデザインをコアとする修学支援策—自分の夢の実現をめざして—」の採択があげられる。

またキャリアセンターの機能充実に伴い、平成 18 年度における就職内定率（82%）が大幅に改善したことと、それ以降の同率の順調な推移も背景にあると思われる。

さらに、卒業生座談会における発言内容からも、倫理面と実学との両面の教育が実を結びつつあり、本学科の取り組みに対する社会的評価は徐々に高まってきているものと思われる。

#### <こども学科長>

平成 16 年度こども学科へ改組し、教員免許状取得に加え保育士の資格を取得できるようにしてから、幼稚園・保育園・社会福祉施設への就職内定率は年々増え続け、平成 20 年度は幼稚園・保育園への内定率は 100%を達成した。社会福祉施設への内定率も 90%を超えており、またそれらの職種の求人数も増加している。これらは、本学の卒業生が、単に就職時に評価されているだけでなく、就職後もそれぞれの職場で教育者・保育者として貢献していることの現れとみられ、社会的に評価されていると考えることができる。

小学校教諭としての採用をみても、本学科は平成 20 年度に千葉県教育委員会から教員採用選考大学推薦特例選考の指定枠（短大は 2 校のみ）を頂き、21 年度はその枠数が 2 名に増加した。これは過去に採用された本学卒業生及び平成 21 年度採用の卒業生が、千葉県における小学校教員として高い評価を受けていることによるものと考えられる。

## <学長>

本学は昭和 43 年の設置後、約 40 年が経過し、約 15,000 名もの有為な人材を送り出し続けてきた。その多くは地域社会の中でしっかりと根を張り地域社会を支えている。そのため本学は社会からも地味ではあるが、堅実な教育機関として確固とした信頼を得ていると考えている。

## 【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さい。

単なるノウハウのみの教育や資格取得のためのみの教育では、短期大学としての教育としては不十分である。本学においては、社会に出てからの様々な状況の変化に柔軟に対応できる、「生きる力を育むこと」が重要と捉え、知識の伝達のみではなく、短期大学教育全体を通じての全人教育を目指している。

具体的な内容としては、学生一人ひとりに対してきめ細かな指導を実現するための少人数教育の充実、学業不適應や心の悩み等に対して専門的なカウンセリングを行う体制の整備、1年次から自らのキャリアを開拓し、確固とした職業意識を身に付けるためのキャリア教育の導入とインターンシップの充実、国際化著しい社会に対応するための海外研修等による国際理解、外国語教育の充実、少子化社会の中で子供に直接かかわる体験を行うための「こども造形教室」の推進等である。

これらの総合的な取り組みを通じて、全人的な教育をさらに推進して行きたい。

## V. 学生支援

### 【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法で、手段で明示しているかを記述して下さい。なお、それらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付してください。

#### 1. 入学志願者に対する建学の精神、教育目的・目標等の提供について

##### ①パンフレット・ビデオ

パンフレットやビデオを作成し、受験生に本学の教育について情報を提供している。そこでは建学の精神についてはもちろんのこと、両学科の教育目的や目標について学科長が説明している。また、学生や卒業生の声も紹介して、本学の様子が理解できるように努めている。

##### ②オープンキャンパス

オープンキャンパスでは、建学の精神、学科ごとの教育目標、学科の特色、学科紹介DVDビデオの上映、在学生や卒業生の体験談、入試概要等の説明、施設見学を中心に行い、本学を理解してもらえるように努めている。過去3年間の回数と参加者は、以下のとおりとなっている。

オープンキャンパス参加状況

年度	回数	参加者数		
		ビジネスライフ学科	こども学科	計
平成18年度	8回	245	844	1,089
平成19年度	8回	272	756	1,028
平成20年度	10回	313	720	1,033

##### ③学校見学

高校の学習指導要領の改訂に伴い、総合学習の時間を利用して、早い時期から希望分野の学校見学を実施する高校が増えている。建学の精神・学科ごとの教育目標・模擬授業・入試概要等の説明、施設見学を通して、その要請に応えている。過去3年間の実施状況は、以下のとおりである。

年度	校数	参加者数
平成18年度	13	186
平成19年度	6	38
平成20年度	4	41

#### ④進学相談会・校内ガイダンス・模擬授業

進学相談会・校内ガイダンス・模擬授業の要請が高校からあれば積極的に出向き、  
本学の内容について広報している。

過去3年間の参加者状況は以下のとおりとなっている。

年度	進学相談会	校内ガイダンス	模擬授業	計
平成18年度	88	324	30	442
平成19年度	61	296	25	382
平成20年度	148	373	117	638

#### ⑤CKCニュース

進路を検討している高校生や高校教員への資料提供を目的として、パンフレットでは伝えきれない本学の特徴・教育内容・学生生活などについて、学生の声を盛り込み、  
時期に応じて分かりやすく具体的に紹介している。

平成14年4月より、年間約8号を発行し、千葉県内の高校及び県外で本学に入学志願者のいる高校等、約632校の第3学年主任・進路指導部長宛に送付している。身近で親しみやすい広報として評価され、高校内の掲示板などで活用されている例もあるが、殆んどが活用されていないため、平成20年度をもって高校送付を取りやめた。平成21年度からは高校訪問する際に持参して直接手渡して見てもらう形態に切り換える。また、オープンキャンパス参加者や個人の資料請求者に配布したり、ホームページで公開して個人でも閲覧できるようにしている。

受験生からの「入学志願者アンケート」では、この「CKCニュース」が本学を印象づけたものとして最も多くの回答を得ており、本学の広報活動の大きな特色の一つとなっている。

#### ⑥ホームページ

教職員で構成するホームページ・ワーキンググループにより、学内で全ての更新等の作業を行っている。建学の精神・本学の特色・キャンパスライフ・卒業後の進路・入試情報等は職員が担当し、学科の教育内容・教員のページ・シラバス等は各学科の教員が担当している。

高校生から見て分かりやすいことを第一に考え、在学生や卒業生のメッセージを入れたり写真を多くしたりして、本学の様子がより伝わるようにと工夫している。

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

パンフレット、オープンキャンパス、学校見学、進学相談会、校内ガイダンス、CKCニュース、ホームページ、新聞、受験雑誌などで入学志願者に対して入学者選抜方法を明示している。

パンフレットは5月中旬に、また入試要項は7月中旬に、千葉県内の高校を中心に配布している。

また、電話、ホームページなどからのメール、受験業者を介した資料請求者に対しては、パンフレット、入試要項、CKCニュース等をその都度送付している。

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

入試広報センター職員7名が広報・入試業務を担当している。

志願者本人、高校の進路担当者、保護者からの問い合わせは、入試広報センターが窓口となり、迅速かつ丁寧に対応している。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料として下さい。

#### ① AO入試

アドミッションポリシーに基づき選考を行うAO入試を、平成14年度から開始した。その選考プロセスはまず、本学に対する理解およびAO入試のプロセスを知ることが目的として事前相談を行い、志望者にはエントリーシートの提出を義務付けている。エントリーシート提出者に対しては、30分程度の面談を実施する。なお、こども学科では、必要に応じて特技の披露や読み聞かせを行っている。エントリーシート等の提出書類及びきめ細かな面接で入学志願者の適性や入学意欲・目的等について総合的に判断している。

本学のAO入試の特色は、充実した入学前教育にある。入学までの学習意欲を持続させると共に入学後の教育システムへのスムーズな移行を目的として行なっている。

ビジネスライフ学科とこども学科では入学までの心構えや模擬授業等を受けた後、レポートを提出させ、アドバイス等を行っており、欠席者に対しても課題を提示してレポート提出をさせてアドバイスを行う等の工夫を行っている。

#### ② 附属校推薦入試

千葉経済大学附属高校の生徒を対象に、同じ学園内の学校として相互の信頼関係に基づいた推薦入試を実施している。ビジネスライフ学科は面接を、こども学科は面接

と作文を課している。出願書類とあわせて総合的に判定している。

### ③ 指定校推薦入試

本学への受験実績及び入学実績を基に、千葉、東京、茨城の地域性を考慮して指定校を定めている。推薦条件は、(ア) 指定高等学校長の推薦、(イ) 当該年度卒業見込みの者、(ウ) 人物優秀、心身ともに健康で勉学意欲があり、本学が専願であること、(エ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの全体の評定平均値3.0以上であること、(オ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの欠席数が30日以内であること。ただし、やむを得ない事由により30日を越える場合は特段の配慮をしている。

両学科とも、出願書類及び面接により判定している。なお、こども学科ではさらに作文も課している。

### ④ 一般推薦入試

一般推薦入試は、指定校では推薦枠に洩れた者、または指定校以外の高等学校で次の推薦条件を満たしている者を対象としている。(ア) 高等学校長の推薦、(イ) 人物優秀、心身ともに健康で勉学意欲があり、本学が専願であること、(ウ) 高等学校3年間または第3学年1学期(前期)までの全体の評定平均値3.0以上であること、(エ) 高等学校第3学年1学期(前期)までの欠席数が30日以内であること。ただし、やむを得ない事由により30日を越える場合は特段の配慮をしている。

選抜は、出願書類の審査、作文及び面接によって総合的に行っている。本入試は年4回実施していたが、平成20年度から3回に変更した。

### ⑤ 特別推薦入試

特別推薦入試は評定平均値と欠席日数の基準は設けていない。心身ともに健康で向上心と勉学意欲があり本学専願である者を対象としている。推薦の形式は、(ア) 出身高等学校の学級担任、クラブ顧問による推薦、(イ) 本学同窓生、本学在学生の父母、本学園教職員などによる推薦、(ウ) 受験生本人による自己推薦がある。選抜は、出願書類の審査、作文及び面接によって総合的に行っている。本入試は年4回実施していたが、平成20年度から3回に変更した。

### ⑥ 一般試験入試

一般試験入試は1期から3期まで3回実施している。選抜は第1期・第2期ともに国語総合(古文、漢文を除く)、英語I・IIのいずれか1科目と面接、作文(こども学科のみ)で実施している。なお、第3期は作文、面接で実施している。

平成18年度～20年度の入試結果は、別添資料3. のとおりである。



## <入試事務責任者>

### ①入試の公正性、正確性の確保について

選抜方法が極めて多様なものとなり、公正さ、正確さを確保するために最大限の配慮を行っている。特に、試験問題の印刷等を学内で行っているため、出題ミスの根絶、安全管理の確保にも気を配っている。入試問題の作成、管理、採点はもとより、入学者選抜に当たって重要性を増した面接における公平性の確保についても留意している。

幸いにして入試に関するミスやトラブルは発生していないが、今後とも気の緩みの無いよう職員を指導していきたい。

本学は、地域密着性が高いため、特に千葉県内の高等学校との相互信頼の確保が極めて重要であると考えている。一度公平性、正確性を欠くようなミスが発生すると、高等学校との信頼関係を大きく損なうこととなるため、入試に当たって公平、正確であることが最大の要件であるとする。

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

本学では、入学予定者を対象に「入学前オリエンテーション」を実施している。その主たる目的は、勉学に対する意欲の向上と入学後の大学生活の円滑化にある。

ビジネスライフ学科の入学前教育は、三つの構成部分から成っている。一つは、入学までの過ごし方や大学生としての心構えなどをテーマとした講義であり、高校から大学への移行をスムーズならしめることを目的としている。入学予定者が、入学までの比較的長い時間を、高校から大学への切り替えの時期として有意義に過ごせるよう方向付けるものである。もう一つは、本学科の主要な授業（必修科目）の体験的学習である。高校とは異なった大学の授業の形態や内容を理解してもらい、勉学意欲を引き出すとともに、入学後の効果的な学習を図るものである。また、これらの講義や体験学習の合い間に、自己紹介のゲームを実施するなどして、入学予定者相互の交流や友人関係の構築を促す試みも併せて行っている。三つ目は、当日の講義についてレポートを書かせることである。レポートの執筆を通して、講義内容の理解と自己チェックが行われ、自らの生き方の問題として積極的に講義を受け止めることが可能となる。レポートは回収され、担当教員が丁寧なコメントを付して後日返却している。

当日、欠席したものに対しては、課題を行わせている。課題図書（もしくは論説）とテーマを与え、それについて400字詰め原稿用紙5枚以上のレポートを提出させる。これらのレポートについても、担当教員が細かくチェックし、丁寧なコメントを付して本人に返却する。コメントでは、欠席当日の入学前教育の講義ポイントなども、併せて記している。

こども学科では、本学独自の教育活動である「こども造形教室」をオープンキャンパスの一環として希望する高校生を参加させている。この「こども造形教室」には、毎月第2土曜日に地域の幼児・児童150名あまりが来校し、本学科の学生たちとともに造形活動をとおして、幼児・児童の生活体験・社会体験を豊かにすることに大学が貢献する地域文化活動である。同時に、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士を目指す本学科の学生たちにとって、こどもたちと直接触れ合い学ぶことのできる貴重な体験学習の機会でもある。本学科への入学を志望する高校生たちの中にも、入学志望動機としてこの「こども造形教室」への関心を挙げる者が多い。

入学予定者には、入学前ガイダンスの参加を基本的に義務としている。やむを得ない事情で欠席する場合は、事前の電話連絡が必要であることを案内に明記するが、不参加者に対するペナルティー等は課さない。前年度の入学前ガイダンスの内容は、免許・資格取得と就職について、短大での学び方、教師・保育者を目指す心得、文書作成能力向上と教育・保育職ピアノ入門、である。

本学の雰囲気を経験的に知ることができ、同級生や在学生と面識を持つことにより、安心して入学を迎えることができ、高校生活から大学生活への移行が円滑に行える。また、造形活動にかかわることでこどもへの指導や援助について学び、問題意識をもつことができ、教育・保育の専門職を目指す者としての入学後の自覚や学習意欲へつながると考えられる。

そのほかに、初等教育・保育の現場において必須の技術とされるピアノについて、担当教員が授業内容やレベル、入学までにできる準備について説明を行い、特に初心者に対する不安軽減をはかり、具体的な授業イメージを持つことができるよう配慮している。

<p>(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。</p>
--

入学時（入学直前含む）に行う、教員と職員による約6日間の集中ガイダンスの中で、学業や学生生活のためのオリエンテーションを行っている。

オリエンテーションでは、その内容により学科別の説明と学科共通の説明に分けて行う。

学科別の説明では、学科の概要説明に始まり卒業要件、資格要件、履修要項、履修手続、ゼミナールガイダンス等を行っている。

学科共通の説明としては、学生生活の心得、学友会やクラブ活動の説明、さらにカウンセリングセンターや図書館の説明、進路指導ガイダンス、インターンシップガイダンス等の紹介などを行っている。

また、そのガイダンス期間中に、大学主催の新生歓迎会を1日開催することにより、教員と学生、また学生同士の親睦に大きく役立っている。

なお、2年次生に対しても、この時期、並行的に科目履修のガイダンスを行っている。

## 【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

入学時ガイダンスで、学科の説明、履修コース・フィールドの説明、履修要項・手続きの説明を行っている。そのガイダンスで充分理解できない学生に対しては、後日、丸1日をかけて集中的に相談を受ける履修相談コーナーを開設している。

平成21年度のガイダンス日程は、巻末資料⑥のとおりである。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

印刷物としては、学生便覧（約140ページ）、授業要項（約330ページ）を用意している。

学生便覧には、学生生活に欠かせない各種案内、各施設案内、就職斡旋、定期試験、教務関係諸手続き、各学科の履修要項、学則を始めとする各規程等を掲載しており、学生生活に必要な情報が満たされている。

また、各授業の内容をできるだけ分かりやすく説明した授業要項を用意して、学生が科目選択する際に役立てられるようになっている。

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組を行っている場合は、その概要を記述して下さい。

補習授業は特に実施していない。

柔軟な卒業要件の設定とカリキュラム編成を行っているため、多様な学力や目的意識の学生についても、卒業要件を充たし卒業することが可能となっている。

こども学科については小学校、幼稚園の教諭や保育士の免許・資格取得を卒業要件としていないため、卒業後就職を予定していない学生にとっても幅広くこどもに対する理解を深め、将来の育児に役立てるという学習目的も可能となっている。

ビジネスライフ学科については、多様な進路に対応した大幅な自由選択性を採用し多彩な授業科目を設定しているため、自らの人生設計や学習目的に対応し、学習することが可能である。

また、両学科とも各々の授業を進める際に学生の学力のバラツキに配慮した指導を行うよう、ファカルティデベロップメント活動等において相互に情報交換し、研究を進めている。

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

比較的少人数の大学であるが故に、教員・事務職員と学生の距離が近く、小さな悩みから気楽に相談できる雰囲気が学内にある。

カウンセリングセンターは、学長・学生部長・センター長・学務課長による運営委員会でその運営を審議し、学生の悩みに専門的に対応している。また、保健室では健康上の問題に限らず、学生生活の悩みにもきめ細かく対応している。

また、こども学科では、学生生活を通して起こる個人的な悩みや勉学上の問題に対して適切なアドバイスや援助を行うために、学生をいくつかのクラスに分け、それぞれのクラスに担当教員を置いている。

ビジネスライフ学科では、ゼミの教員が同様の対応をしている。

保健室における相談内容と件数（延べ人数）

	相談内容											合計	
	治療中の疾患	身体症状	精神面	進学進路	授業	恋愛	対人関係				経済面		その他
							友人	教職員	異性	家族			
平成 18 年度	5	27	6	8	56	0	7	0	2	1	0	56	168
平成 19 年度	2	33	7	0	29	0	10	0	0	1	0	67	149
平成 20 年度	7	18	2	9	19	0	4	0	1	0	0	63	123

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行っていれば、記述して下さい。

柔軟なカリキュラムを設定しているため、優秀な学生は年間に履修できる単位の上限（50単位）まで自由に科目履修ができるようになっている。従って、意欲のある学生は限度一杯まで履修し、様々な専門分野の学習を行っている。

また、将来の進路を見据えながら、様々な資格、検定試験に挑戦することができる。簿記検定、日本語文書処理技能検定、ファイナンシャル・プランナー、秘書技能検定等であり、このような資格取得に対応したカリキュラムも用意されている。

図書館司書の資格については、司書課程の科目を履修することにより取得することが

できるが、この科目の履修は年間履修単位の上限の枠外として履修しやすいように配慮している。

また、千葉経済大学や県内他大学の授業を履修することのできる特別聴講学生の制度もあり、様々な教育ニーズに対応できるように配慮している。

### 【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生部会（教員 10 名）、学務課（職員 6 名：兼務 1 名、看護師 1 名）の体制で学生生活を支援している。具体的には、新入生歓迎会、スポーツ祭、学園祭（とどろき祭）等の学生が行う活動に学生の自主性を尊重しながら、企画から会計まで側面から強力な支援を行っている。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

#### ①クラブ活動の現状

学内施設（体育館、部室等）の利用は午後 8 時まで可能であり、各クラブが、それぞれ自分たちの都合にあった時間帯で活動しやすい環境を作っている。

また、本学は、日本私立短期大学協会が主催する全国私立短期大学体育大会に毎年参加している。

#### <クラブ・同好会活動一覧> (平成 20 年度)

##### ○体育会クラブ

クラブ名	学生数
硬式テニス	7
バスケットボール	20
バドミントン	13
バレーボール	8
スクーバダイビング	42

##### ○文化系クラブ

クラブ名	学生数
小原流華道	2
日本古流華道	9
会計研究	6

吹奏楽	4
合唱	5
軽音楽	35

○同好会

クラブ名	学生数
ファイナンシャルプランナー	9
書道	3
こども音楽	7
フットサル	14
ドイツ語	10
SAVE THA CHILDREN	4
ダンス	11
ネイチャーゲーム	5
軟式庭球	10
天体観測	15

① 学友会の現状

2学科で約750名の学生が学友会に所属している。学友会執行部は、学園祭、スポーツ祭、およびクラブ活動・同好会の企画・運営・管理を行っている。年間予算は、約500万円である。

② 学園行事の現状

学園祭（とどろき祭）は毎年10月下旬から11月上旬の2日間にわたって開催され、クラブ・同好会やゼミが主催する発表会や催し物を始め、外部から若手タレントを招いたイベント等が行われる。併せて、当日は模擬店も出展され、他校の学生や近隣地域の住民・子どもたちも自由に参加できるようになっている。また、スポーツ祭は新入生を中心に5月下旬から6月上旬に開催され、学生同士や教職員との親睦を図り、豊かな人間関係をつくることに役立っている。

**(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。**

短大の敷地内に学生ホールがあり、1階にはプラズマテレビが設置され、2階では自習が出来るようになっている。パソコン教室も、授業のない時間には学生の要請に応じて開放されている。

同じ敷地内に学生食堂があり、利用しやすい環境が整っている。また、本部棟に看護師が対応する保健室があり、学生の心身の悩みに応えられるようになっている。加えて

同じキャンパスにある千葉経済大学の学生ホールや学生食堂や売店も、自由に利用できるようになっている。

さらに短大敷地内にクラブ・同好会の部室（18 部屋）を備えた新体育館が平成 17 年度新設され、活発に利用されている。

**(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。**

学校は JR 総武線西千葉駅から徒歩 15 分（巡回バス 5 分）、千葉都市モノレール作草部駅、天台駅からいずれも徒歩 5 分と交通の便は至極いい場所にある。

なお、自転車通学者のために自転車を 100 台程度置ける自転車置場を設けている。学生の自動車・バイク通学は、安全上の観点から禁止している。

学生寮は設置していない。

**(5) 平成 20 年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。**

①日本学生支援機構の奨学金制度の概要

日本学生支援機構の奨学金制度で、第 1 種（無利子）第 2 種（有利子）の種別がある。

②千葉経済学園奨学金制度の概要

千葉経済学園全体の奨学金制度であり、毎年約 10 名程度の学生に 500,000 円（平成 20 年度より 250,000 円から 500,000 円）を限度に無利息融資を行うものである。

奨学金受給者一覧

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
	受給者数	受給者数	受給者数
日本学生支援機構（1 種）	26	28	28
日本学生支援機構（2 種）	66	51	73
千葉経済学園	3	3	10

※当該年度に新規採用（予約採用を含む）された者の数

**(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。**

①保健室

（運営体制）・・・看護師 1 人、学務課職員（看護師との連携）

②カウンセリングセンター

（運営体制）・・・カウンセラー 2 人が毎週火・木の 2 日、予約者を優先してカウ

ンセリングを行い、その運営は学長・学生部長・センター長・学務課長による運営委員会で審議している。

**(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。**

①個人情報の保護に関する規程の制定

本学園においては「個人情報の保護に関する法律」の趣旨に基づいて、規程を制定し、平成17年4月1日に施行した。

規程においては、個人情報の保護、個人情報の取扱いに伴う情報主体に係る権利・利益への侵害の防止に関する必要な措置を定めたもので、個人情報の収集の制限、利用及び提供の制限、個人情報の適正な管理、開示及び訂正、不服の申し立て及び個人情報保護委員会等を主な内容としている。

本学はこの規程を学生及び保護者並びに教職員に周知するとともに、規程の趣旨を踏まえ、適切な措置を講じているところである。

②個人情報の具体的な取扱いについて

学校が取扱う個人情報は多岐に渡り、膨大な量であり、また、教育・指導と密接に関係しているため、総てを網羅した規程を作成することは困難である。しかし事柄の重要性に鑑み、事務局がデータとして保持する個人情報については、(ア) 取得時の説明、(イ) 本人の同意の取得、(ウ) 外部委託、第三者提供に当たっての留意点、(エ) 管理方法・保存期間、(オ) 管理責任者等について規定した内規を作成し、その適切な取扱いを行っている。

なお、一人一人の教員が取扱う学生の成績等の情報も膨大で、極めて重大な個人情報であるため、教授会において学長からその取扱い、管理について十分留意するよう全教員に指示を行ったところである。



【進路支援について】

(1) 下の進路状況表を例に過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の就職状況を学科ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

平成18年度～20年度 ビジネスライフ学科の進路状況 (平成21年3月31日現在)

区 分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	161人	161人	144人
b 就職希望者数	139人 (86.3%)	133人 (82.6%)	117人 (81.3%)
c うち学校で斡旋した 就職者数	16人 (11.5%)	17人 (12.8%)	4人 (3.4%)
d うち自己開拓分 の就職者数	92人 (66.2%)	97人 (72.9%)	77人 (65.8%)
e 就職未定者	31人 (22.3%)	19人 (14.3%)	36人 (30.8%)
f 進学・留学希望者数	9人 (5.6%)	6人 (3.7%)	8人 (5.6%)
g その他	13人 (8.1%)	22人 (13.7%)	19人 (13.2%)

平成18年度～20年度 こども学科の進路状況 (平成21年3月31日現在)

区 分	18年度	19年度	20年度
a 卒業者数	181人	195人	193人
b 就職希望者数	151人 (83.4%)	166人 (85.1%)	167人 (86.5%)
c うち学校で斡旋した 就職者数	29人 (19.2%)	36人 (21.7%)	36人 (21.6%)
d うち自己開拓分 の就職者数	122人 (80.8%)	130人 (78.3%)	131人 (78.4%)
e 就職未定者	14人 (9.3%)	2人 (1.2%)	1人 (0.6%)
f 進学・留学希望者数	12人 (6.6%)	12人 (6.2%)	6人 (3.1%)
g その他	18人 (9.9%)	17人 (8.7%)	20人 (10.4%)

**(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。**

現在は、専任教員のうち就職部長1名のほか、ビジネスライフ学科3名、こども学科5名、計9名の教員が就職部員となっている。一方事務局は、キャリアセンター室長を含め7名で大学及び短期大学部を統合して担当するキャリアセンターを構成している。

キャリアセンターでは、学生への就職相談や、求人企業の開拓、各種ガイダンス・講座などを企画し、就職支援にあたっている。また、こども学科の教職及び保育関係については、こども学科就職委員（こども学科教員5名）が就職や教員採用試験について支援しており、また、教職・保育士専門のキャリアセンター（分室）を設置し、2名の職員が常時就職支援を行っている。

学生の進路支援は、就職部・キャリアセンターにとどまらず、全学的にゼミ担当教員（ビジネスライフ学科）、相談教員（こども学科）が学生の相談に応じている。なお、ゼミに所属していない一部のビジネスライフ学科の学生についても相談教員を置いている。

また、ビジネスライフ学科においては、学生一人ひとりがどのような将来設計を描けばよいか、自ら考える能力を育むための授業科目「キャリアデザイン」をコアとして、フィールド制によるカリキュラム全体で有機的に連携して就職支援を行う体制を整えている。

**(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報を提供しているかを記述して下さい。**

一般就職については、大学、短期大学部共通のキャリアセンターにおいて、終日、自由に就職情報を閲覧できるようになっている。また、いつでも学生の個別相談に応じ、きめ細かな情報提供や、指導ができるように専任のスタッフが対応している。

また、キャリアセンター内には11台のパソコンを設置し、インターネットを通じた就職情報、企業情報へのアクセスが円滑に行えるよう配慮している。

本学では、1年次4月に就職ガイダンスを実施し、10月に保護者も同時に参加できる就職活動スタートセミナー、2月に就職模擬試験及び大学と合同の学内企業説明会を実施している。

ビジネスライフ学科では、キャリアデザインの授業を通し、働くことについて考えるようにした。

一方、こども学科では、こども学科就職委員の教員を中心に、専任教員が一丸となって「小学校採用試験対策」「幼稚園試験対策」「保育士試験対策」を随時行っている。また、教職、保育士専門のキャリアセンター（分室）を設置し、学生に対して就職情報の提供や個別相談等の業務を行っている。教員とキャリアセンター職員が保育園、幼稚園

を訪問し、幼稚園、保育園の現場で求められる人材像を聞き、学生指導にあたっている。

(4) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の就職情報について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

#### <ビジネスライフ学科長>

平成20年度における世界的な経済状況の悪化は、本学のみならず各大学に多大な影響をもたらしたと思われる。本学科の学生にとってもそれは例外ではない。就職希望率を見てみると、平成18年度の87%から、19年度83%、20年度68%へと徐々に低下してきていることが気にかかる。他方で目的意識の明確な学生は、多くの資格を取得し、激しい就職戦線に勝ち残り就職を果たしている。

本学科における内定率は、平成18年度82%、19年度86%、20年度87%という高い比率を示している。これらの状況は、教職員挙げての支援体制が功を奏しているものと思われる。

一方、就職先についてはこれを業種別に見れば、平成18年度から20年度を通じて、卸・小売業の比率が圧倒的に高く、カリキュラム編成の面からも一層の配慮を要するものと考えられる。

#### <こども学科長>

本学科の学生はほとんどが教職・保育職を志望して入学しており、全員が希望通り就職できるように指導してきた。この成果は上がっている。諸事情で卒業後、他の職業に就く学生も就職希望者のうち10%程度存在し、また、進学を希望する学生、就職を希望せずに卒業した学生も存在する。つまり、教員養成のカリキュラムで学習していくうちに、自分が教員としての適性に欠けていると自覚するに至った学生である。教職・保育職は責任の重い仕事であるため、諦めさせなければならないこともあり、ある程度致し方ないことではあるが、進路を変更した学生の就職指導・支援については手厚く行う必要がある。

就職希望率及び就職率はこの3年徐々に数値を上げ、平成20年度は就職希望率86.5%、就職率86%であり、就職（内定）は99.4%に達している。特に、幼稚園・保育園希望者の就職（内定）率は100%を達成しており、満足のいく数字となっている。公立保育園の合格者も平成20年度は8名となり評価されてよい。

大量採用の時代に入った小学校教員採用数は、本学卒業生の場合、平成20年度で現役2名、既卒者6名であった。同年度の現役学生の小学校教員志望者は18名で、不合格となった者も臨時採用され、また学童保育指導員として採用されていて、小学校教員を希望する学生はすべてが何らかの形で教職に就けるようになった。なお、平成20年度から千葉県の教員採用選考大学推薦特例選考の指定枠を頂いており、平成21年度はその枠が2名に増加した。短大の指定校は千葉県内の2校のみであり、これは本学の教員養成が

評価された結果と考えている。

#### <学長>

学生の就職は、年々難しくなっている。そのような状況の中で一人ひとりの学生が入学当初の目的を達成することができるよう教職員挙げて支援を行っている。

その結果、就職率としては一定の成果を挙げることができていると考えているが、問題は、フリーターやニートと言った言葉に象徴されるように就職を希望しない学生がある程度いることである。

そのため、学生の就職観、職業観を育むことが重要と考え、平成17年度からビジネスライフ学科では、1年次生全員必修の授業科目として「キャリアデザイン」を設けた。そして同科目をコアとして、フィールド制によるカリキュラム、インターンシップ、基礎ゼミ、専門ゼミ等が有機的に連携し、キャリアセンターが側面から全面的にサポートして学生一人ひとりの夢の実現を支援する体制を整えた。なお、この「キャリアデザインをコアとする修学支援策—自分の夢の実現を目指して—」は平成19年度の文部科学省の「学生支援GP」に採択された。

<p>(5) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい。</p>
--

過去3年間の本学卒業生の大学への編入学、専門学校等への進学の状況は次の表の通りである。

大学へ編入学は毎年8人程度進学しており、そのうち併設の千葉経済大学への進学者が多数を占めている。その他、千葉県内の東京情報大学、聖徳大学などへの進学が多い。専門学校への進学は3から4名となっている。なお、本学卒業後に新たに免許や資格取得を目指して本学に再入学した者や科目等履修生となった者については、「その他」として挙げた。

卒業後に海外留学した者は、過去3年間についてはいない。

進学（編入学）の案内については4月のガイダンスで説明し、キャリアセンターで相談者には案内している。

### 卒業生の大学への編入学、専門学校等への進学状況

		平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
ビジネス ライフ 学科	大学編入	4	3	7
	うち千葉経済大学	2	2	6
	専門学校進学	2	2	2
	その他	0	0	0
こども 学科	大学編入	3	3	2
	うち千葉経済大学	0	0	0
	専門学校進学	1	2	2
	その他	7	7	1
合計	大学編入	7	6	9
	うち千葉経済大学	2	2	6
	専門学校進学	3	4	4
	その他	7	7	1

#### 【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。

なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

#### 学生の受け入れ状況（平成18年度～20年度）

種別	18年度	19年度	20年度	計
留学生（人）				
社会人（人）				
帰国子女（人）				
障害者（人）	1	0	1	2
長期履修学生（人）				
科目等履修生（人）	80	79	56	215

本学は、開学以来外国人留学生の特別選抜は実施していない。これは、本学の方針として、外国人留学生を受け入れる施策は取っていないためである。

しかし、これは、国籍によって差別をするということでは全くなく、本学の教育を受けるに足る資質と能力を持っている外国籍の学生であれば、日本人と全く同様の入試システムによって入学を許可することになっている。

外国人学生の入学後の教育や指導については日本人学生と変わりなく、教職員がきめ細かい指導を行っている。

また、本学は社会人特別選抜も実施していないため、明確な定義付けによる社会人入学者数は明らかではないが、入学者のうち過年度卒業生の数は次表のとおりである。

### 過年度卒業生の入学者数

年 度	入学者数	過年度卒業生
平成 18 年度	399	13
平成 19 年度	380	15
平成 20 年度	356	13

心身に障害のある学生を受け入れた場合には、その障害の状況と程度に応じ支援の体制を取るとともに、施設、設備面での対応も必要と考えているが、これまでの入学者の障害の程度は軽度であるため、施設・設備面での対応の必要は特に生じていない。

#### 【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

特に最近、経済的な事情により就学の機会が失われたり、中途退学をせざるを得ない学生が増加傾向にあるため、平成 16 年度に学園独自の学資援助方策の一つとして学資貸与の制度を創設した。勉学意欲がありながら経済的理由により修学が困難な者に、年額 25 万円を無利子で貸与するものであったが、平成 20 年度より年額 50 万円に引き上げられた。

また、特待生の制度も設け、成績優秀者の授業料を免除している。更に学生の様々な活動を奨励し、活発化するため、次のような表彰制度を設けている。

理事長賞・・・在学期間を通じての成績優秀者（若干名）に対して卒業時に授与される。

とどろき奨励賞・・・在学中に学術・文化・スポーツ・社会活動などの分野で顕著な活躍をした学生に与える。

（受賞例）秘書技能検定準 1 級の合格者、全国大会で優秀な成績を修めたテニス部等

学長特別表彰・・・とどろき奨励賞に該当するもののなかでも、特に成績優秀で特別な表彰に値するもの。

（受賞例）秘書技能検定 1 級の合格者

## VI. 研究

### 【教員の研究活動全般について】

(1) 次の「専任教員の研究実績表」を例にして過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

平成18年度～20年度 専任教員の研究実績表

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的活 動の有無	備 考
			著作数	論文数	学会等 発表数	その他			
ビジネス ライフ 学科	赤池 隆雄	教授	0	0	0	0			
	飯名 皓作	教授	1	3	0	0		有	
	井芹 康統	教授	0	2	7	4	有	有	
	市岡 義章	教授	1	1	1	0		有	
	澤村 孝夫	教授	0	2	0	0		有	
	杉田あけみ	教授	2	7	2	2	有	有	
	玉置 友一	教授	0	0	0	0		有	
	中村 秀一	教授	0	0	0	0	有	有	
	西川 篤志	教授	0	2	5	1	有	有	
	江上 邦博	准教授	0	3	0	1		有	
	齊藤 誠一	准教授	0	2	2	33	有	有	
	柳浦 恭	准教授	1	0	0	0	有	有	
こども 学科	内山 隆	教授	1	4	3	1	有	有	
	大沼 徹	教授	0	0	0	1		有	
	齋藤 朗	教授	0	0	0	2		有	
	佐久間勝彦	教授	1	0	0	0		有	
	高木 誠	教授	0	1	0	8		有	
	三上 修二	教授	12	0	0	0		有	
	磯村 陸子	准教授	2	0	1	3		有	
	絹川 文仁	准教授	0	8	0	30	有	有	
	千葉 弘明	准教授	1	0	0	0		有	
	中島千恵子	准教授	2	0	4	24		有	
	三好 理夫	准教授	0	0	0	1		有	
	横山 洋子	准教授	0	0	1	25		有	
	吉村 香	専任講師	0	1	3	4		有	
	柏木 恭典	専任講師	0	8	2	2	有	有	
	高野 浩	専任講師	0	2	0	0		有	
	佐久間美羊	専任講師	0	1	1	3	有	有	
	野中 定枝	専任講師	0	0	1	0		有	
松田 清美	専任講師	0	0	0	1		有		

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学の研究紀要「千葉経済大学短期大学部研究紀要」等に掲載された論文、研究ノートについては、本学ホームページに掲載し公表している。

研究活動の状況については、年度末に全教員から研究実績の提出を受け、「教育研究業績」を作成している。「教育研究業績」自体は公表していないが、外部からの本学の研究内容の問い合わせ等に対応するための資料として活用されている。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの調達資金(件数)を一覧表にして下さい。

外部研究資金の申請・採択状況(平成18年度～20年度) (件数)

外部資金調達先等	18年度		19年度		20年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	新規2 継続0	新規1 継続0	新規1 継続1	新規0 継続1	新規1 継続1	新規0 継続1
その他の外部 研究資金	調達先 ・資金名等	0	0	0	0	0
合計		2	1	2	1	2

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係わる研究の状況について記述して下さい。

①共同研究

本学は共同研究を助成するため、「千葉経済大学短期大学部研究助成費取扱規程」を整備し、専任教員を中心として企画した研究活動に対し、共同研究費を助成している。

平成18～20年度の共同研究費助成状況

年度	研究課題	担当教員	助成金額
平成18年度	連弾の研究	高木教授	500,000
平成19年度	授業評価方法の多元化の試み	江上准教授・内山教授	1,000,000
平成20年度	該当なし		

②受託研究

外部機関から委託を受けて実施した受託研究は平成18～20年度にはなかった。



【研究のための条件について】

(1) 研究費（研究旅費を含む）についての支給規定等（年間の支出限度額等が記載されているもの）を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の決算書から研究に係わる経費を項目（研究費、研究旅費、研究に係わる施設、機器・備品等の整備費、研究に係わる図書費等）ごとに抽出して一覧表にして参考資料として準備して下さい。

①教員研究費について

教育研究費は、「専任教員に対する研究活動助成について（内規）」に基づき、1年度、1人当たり450,000円を限度として使用できるよう定めており、用途は図書購入費、機器備品購入費、旅費交通費、諸会費等研究活動に要する経費としている。

平成18～20年度の支給状況は次表のとおりである。

個人研究費実績一覧

(平成18年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				国内	国外		
ビジネスライフ学科	3,013,504	634,570	93,903	1,122,663	0	155,000	24,050
こども学科	4,618,412	533,600	27,265	578,690	354,608	690,450	11,466
計	7,631,916	1,168,170	121,168	1,701,353	354,608	845,450	35,516

	会議費	修繕費	賃金謝礼	賃借料	損害保険料	委託手数料	18年度計
ビジネスライフ学科	0	14,700	36,735	12,591	0	212,396	5,320,112
こども学科	0	0	284,888	7,650	0	118,665	7,225,694
計	0	14,700	321,623	20,241	0	331,061	12,545,806

(平成19年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				国内	国外		
ビジネスライフ学科	3,449,284	613,730	38,465	492,605	742,305	267,195	24,565
こども学科	4,863,764	224,675	27,542	521,844	315,221	415,030	147,000
計	8,313,048	838,405	66,007	1,014,449	1,057,526	682,225	171,565

	修繕費	賃金謝礼	賃借料	損害保険料	委託手数料	その他	19年度計
ビジネスライフ学科	0	4,252	0	1,800	56,030	9,870	5,700,101
こども学科	25,200		123,000	0	407,670	0	7,070,946
計	25,200	4,252	123,000	1,800	463,700	9,870	12,771,047

(平成20年度)

	消耗品費	諸会費	通信費	旅費交通費		機器備品	印刷製本費
				国内	国外		
ビジネスライフ学科	3,535,080	594,346	86,433	487,328	198,463	299,800	3,530
こども学科	5,448,097	535,522	67,690	652,658	67,900	260,565	0
計	8,983,177	1,129,868	154,123	1,139,986	266,363	560,365	3,530

	会議費	修繕費	賃金謝礼	賃借料	公租公課	委託手数料	20年度計
ビジネスライフ学科	0	0	26,134	20,000	0	121,000	5,372,114
こども学科	0	55,485	88,666	179,760	5,000	717,280	8,078,623
計	0	55,485	114,800	199,760	5,000	838,280	13,450,737

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保に、その概要を説明して下さい。なお、過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見しますのでご準備して下さい。

「千葉経済大学短期大学部紀要」を年一回発行している。同紀要に掲載された全ての論文等は、国立情報学研究所(NII)電子図書館サービスのデータベースに登録・公開するとともに、学内記録用に100部を印刷・製本している。

また、本学の「学術図書刊行助成金規程」により、教員が学術図書を刊行する場合、1件につき150万円の範囲で毎年度原則2件に対し助成する制度が設けられており、平成18年～20年では3件が採択され、刊行されている。

(3) 教員の研究に係わる機器・備品、図書等の整備状況について、平成20年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係わる機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

専任教員の研究に係る機器、備品、図書等の平成20年度の支出状況は次のとおりである。

項 目	金 額 (円)
パソコンリース期間更新 (17件)	742,770
パソコン購入 (2台)	482,080
図書購入 (消耗品含む)	3,004,627
計	4,229,477

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

教員の研究室は、37室、総面積458.6㎡である。現在専任教員数は30名で1人1室使用しているが、研究室の広さは9.0㎡～27.7㎡と異なるため、退職者があれば広い研究室に移動するなどの措置をしている。

(5) 教員の研修日程、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

平成20年度の専任教員のコマ数はゼミ担当の教員はゼミも含めて、少ない教員で2.5コマ、多い教員で15.5コマ、平均は6.8コマである。1週のうち授業のために2日～3日、会議の日として1日をあてており、それ以外は研究活動の時間として活用することができるようになっている。

【特記事項について】

(1) この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

特になし。

## Ⅶ. 社会的活動

### 【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

地域に開かれた大学づくりは本学の基本理念であり、開学以来長い歴史と実績を残している。

千葉市大学開放講座については昭和 55 年に開始され、地域住民を対象とした多様な学習機会を提供してきたが、同事業は、千葉市教育委員会と千葉市大学リレー講座実施協議会が共催する「千葉市大学リレー講座」に受け継がれた。

また、平成 7 年度からは本学と鎌ヶ谷市との共催により「オープンカレッジかまがや」が開催され、その企画に地域住民が参画するというユニークな事業として毎回多くの参加希望者を集め、既に 13 年間に渡る実績を有している。

平成 4 年度からは、地域の子どもたちの造形的な創造性を育み、豊かな人間性を培うとともに、地域コミュニティの再構築のためにも意義深い「こども造形教室」が年間 9 回実施されている。同事業は、平成 15 年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」において、他大学のモデルとなる特色ある教育活動として採択された。

その他、教員が地方自治体の審議会や委員会の委員として積極的に参加する等、活発な社会的活動を展開している。

今後とも本学の最も重要な活動の一つと位置付け、一層積極的に推進していく方針である。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

生涯学習社会の成熟、ユニバーサルアクセスの実現が不可欠となってきた社会状況のもとで、高校や短大、大学を卒業後、社会人としての経験を経た後、新たに学習の機会を得るため、また、新たな職業への可能性を切り開くために教育の機会を求める社会人が増えている。この要請に応えることは、極めて大切である。

本学としては、今後もそのような要請に積極的に対応していきたいと考える。現に様々な職歴を持った経験のある学生も入学してきており、また、社会人の科目等履修生としての受け入れも積極的に行い、毎年、司書課程には年配の履修生が多い。

また、平成 21 年度より、教員免許状更新講習を開設し、該当者の受け入れを行っている。

(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)に短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

①オープンカレッジかまがや

平成7年度以来、鎌ヶ谷市と本学との共催により鎌ヶ谷市中央公民館で開放講座(オープンカレッジかまがや)を実施している。毎年9月から10月にかけて8回程度の講義を行い、毎年多数の応募者の中から抽選によって100名が参加している。

受講者数

	総人数	年齢別内訳(人)			
		40歳代以下	50歳代	60歳代	70歳代以上
平成18年度	100	1	8	58	33
平成19年度	100	1	9	59	31
平成20年度	100	4	2	53	41

②こども造形教室

平成4年度から小学校が毎月第2土曜日が休業日となったことを受けて、地域に密着し開かれた大学を目指し、近隣の轟町小学校及び弁天小学校の児童を対象に開設した。毎年5月から翌年2月まで月1回土曜日に開催され、100名から200名のこどもが参加し、それにこども学科の学生が協力することで、「地域への貢献」と「学生の実践教育」が同時に実現している。

参加者数

	総人数	開催回数別内訳(人)							
		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回
平成18年度	959	101	108	145	121	122	136	111	115
平成19年度	832	85	125	110	148	125	150	89	
平成20年度	930	165	177	59	158	147	112	112	

※平成19年度より年7回実施。

③科目等履修生の受入れ

社会人及び、千葉経済大学の学生を対象に、図書館司書、小学校教諭、幼稚園教諭、ファイナンシャル・プランナーの資格取得を目的とする履修生を中心に受け入れている。

科目等履修生の受入れ状況

	総人数	資格別人数*(人)			
		図書館司書	小学校教諭	幼稚園教諭	F・P
平成18年度	80	18	48	10	8
平成19年度	79	21	46	5	10
平成20年度	56	17	33	6	3

\*1人が複数の資格を希望する場合があるので、総人数とは一致しない。

#### ④総合図書館講演会

総合図書館の主催により、毎年公開講演会を開催しており多数の地域住民が参加している。

年 度	演 題	参加者数
平成 18 年度	「図書館であそぼう」	90
平成 19 年度	中国古典に学ぶ －「論語」と「孫子」－	80
平成 20 年度	孔子の人間学 －『論語』の解釈をめぐって－	70
	経世済民の『論語』 －素行・仁斎・澁澤榮一の目を通して－	40

(4) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について、記述して下さい。

千葉県学力向上推進委員会等の役員、委員等に就任している平成 18～20 年度の教員数、団体数は次のとおりである。

年 度	人 数	件 数
平成 18 年度	9	18
平成 19 年度	8	13
平成 20 年度	8	13

#### 【学生の社会的活動について】

(1) 過去 3 ヶ年（平成 18 年度～20 年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

こども学科の学生はなんらかの自主的・主体的なボランティア活動を行っている。

ボランティア活動に取り組むきっかけについては、教育に興味を持っている学生が自らの居住地のこどもたちのためにスポーツや文化活動に取り組む場合と、大学の教育実習をきっかけに実習先の幼稚園・保育園や介護施設への活動に取り組む場合とが見受けられる。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

本学は、地域に生きる大学として積極的な地域貢献活動を行っており、学生の地域活動、ボランティア活動についても、学生自身の主体性の下で積極的に推進されるこ

とを期待している。

ただし、学生のこのような活動について斡旋をしたり調整をしたりすることは、学生自身の主体性を損なうことにもなりかねないので、極力学生の自主性に委ねている。無理のない、地道な、息の長い活動を期待しており、平成17年2月に行ったアンケート調査の結果では、約1割の学生が何らかの活動を行っていると回答している。

実施率としては決して高い数値ではないが、ことさらボランティア活動をするという意識はないものの、地域の子どもたちにスポーツを指導したり、老人ホームで簡単な手伝いをしたりといった平素の活動は、この他にもかなり行われているのではないかと思われる。

なお、社会活動その他の分野で他の学生の模範となる活動を行った学生個人及び団体については、その活動をたたえ、奨励するために「とどろき奨励賞」の制度が設けられている。

#### 【国際交流・協力への取組みについて】

(1) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の学生の海外教育機関等への派遣(留学〈長期・短期〉を含む)の状況を記述して下さい。

ハワイ短期大学：過去3カ年の実績

年 度	期 間	場 所	参加人数
平成18年度		実施していない	—
平成19年度	8/13~8/24	ハワイ大学マノア校カウアイ・コミュニティ・カレッジ	11
平成20年度		実施していない	—

(2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

平成6年、「海外の大学における教育体験」「海外における生活体験」「海外における文物の見聞」を趣旨とした新しい留学制度が発足し、ハワイ大学に属するカウアイ・コミュニティ・カレッジと教育提携を調印し、以降、毎年10名～20名程度の短期留学生を送り出している。

また、カウアイ・コミュニティ・カレッジからも毎年ではないが、教員・学生が来校している。平成18年には教員1名、学生9名が、また平成19年には教員1名、学生8名が約2週間本学を訪問し、授業参加や本学学生との交流、ホームステイ等の活動を行った。

近年、経済状況の悪化などの事由で、参加希望者が極めて少なく実施が見送られることが多くなっている。



(3) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

教職員の平成18～20年度の海外派遣状況

年 度	テ ー マ	期 間	担当者
平成18年度	高圧半導体物理国際会議 他	7/31～8/3 他	西川教授 他
平成19年度	Image electronics and Visual Computing Workshop 他	11/25～11/27 他	玉置教授 他
平成20年度	International Workshop on Advanced Image technology	1/12～1/13	玉置教授

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

地域の子どもたちの造形的な創造性を育み、豊かな人間性を育成するという教育面での地域貢献を行うために「子ども造形教室」を開始し、以来16年間に渡り実施し続けている。

年間9回のような様々な造形活動に、毎回100～200人の地域の子どもたちが参加し、学長のリーダーシップと子ども学科の教員の協力の下に、数十人の学生がボランティアとして参画している。

小学校、幼稚園教員を養成する子ども学科の学生たちにとって、子どもたちとの触れ合い方を実践的に学び、子ども理解を深め、更には教職へのモチベーションを高めることになり、また、「基礎造形」や「教育実習」の授業と密接に連携した実践的な教育活動としても極めて特色ある取り組みとなっている。

本事業は、平成15年度から始まった文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」において、他大学のモデルとなる特色ある教育活動として、664大学・短期大学の応募の中から千葉県内の短大として唯一採択された。

この事業は、現在プログラムとして陶芸活動も取り入れ、地域の大人たちをも巻き込んだ教育活動として更に発展しつつある。

## VIII. 管理運営

### 【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係わる重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

短期大学部学長が平成 17 年度に理事長に就任したため、教授会や両学科の学科会議、執行部会、関係委員会には必ず出席をして、すべての重要事項の審議に直接関与してリーダーシップを発揮している。更に日常的にも短期大学部教職員と直接話をする機会をできるだけ多く設けており、大学運営の細部についても相談を受け、アドバイスを行ったり、指示を行うなど、理事長の立場としてのリーダーシップも直接的、効率的に発揮されている。

(2) 過去 3 ヶ年(平成 18 年度～20 年度)の理事会の開催状況(主な議案、理事の出席状況等を含む)を下表を例に開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄付行為上の規定を記述して下さい。

平成 21 年 5 月 1 日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示しください。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

平成 20 年度 理事会開催状況

開催年月日	議案	出席者数	定数
平成 20 年 5 月 27 日	平成 19 年度事業報告(案) 平成 19 年度決算(案) 他	10	10 以上 13 以内
平成 20 年 5 月 27 日	千葉経済学園寄附行為一部改正(案) 千葉経済大学短期大学部平成 21 年度学費(案) 他	10	10 以上 13 以内
平成 20 年 11 月 19 日	千葉経済大学附属高等学校の平成 21 年度学費(案) 評議員の選任(案) 他	11	10 以上 13 以内
平成 21 年 3 月 17 日	平成 20 年度予算補正(案) 平成 21 年度予算(案) 他	11	10 以上 13 以内

平成 19 年度

開催年月日	議 案	出席者数	定 数
平成 19 年 5 月 31 日	平成 18 年度事業報告 (案) 平成 18 年度決算 (案)	9	10 以上 13 以内
平成 19 年 5 月 31 日	千葉経済学園寄附行為の一部改正 (案) 千葉経済大学附属高等学校建築科廃止 (案)他	9	10 以上 13 以内
平成 19 年 11 月 21 日	県学事課検査指導結果に対する改善・是正報告(案) 千葉経済大学なでしこ幼稚園の廃止 (案)他	10	10 以上 13 以内
平成 20 年 3 月 19 日	平成 19 年度予算補正 (案) 平成 20 年度予算 (案) 他	10	10 以上 13 以内

平成 18 年度

開催年月日	議 案	出席者数	定 数
平成 18 年 5 月 30 日	平成 17 年度事業報告 (案) 平成 17 年度決算 (案) 他	8	10 以上 13 以内
平成 18 年 11 月 8 日	千葉経済大学附属高等学校の平成 19 年度学費 (案) 千葉経済大学短期大学部学則の一部改正 (案) 他	10	10 以上 13 以内
平成 19 年 3 月 19 日	平成 18 年度予算補正 (案) 平成 19 年度予算 (案) 他	8	10 以上 13 以内

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

常任理事会等は設けていない。

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成 20 年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自信が率直に現状を記述して下さい。

監事の寄附行為上の規定は、次のとおりである。

- ① この法人の業務を監査すること。
- ② この法人の財産の状況を監査すること。
- ③ この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後 2 月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
- ④ 第 1 号又は第 2 号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄付行為に違反する重大な事実があることを発見した

- ときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。
- ⑤ 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の召集を請求すること。
- ⑥ この法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べること。

前年度の監事の業務執行状況は、次のとおりである。

- ① 平成 19 年度決算監査の実施。
- ② 平成 20 年度 5 月 27 日開催の理事会において、監査結果の報告を行う。
- ③ 理事会に出席し、業務執行状況について意見を述べる。

**(5) 平成 20 年度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄付行為上の規定を記述して下さい。**

平成 20 年度評議員会開催状況

開催年月日	議案	出席者数	定数
平成 20 年 5 月 27 日	平成 19 年度事業報告 (案) 平成 19 年度決算 (案) 千葉経済学園寄附行為一部改正 (案) 千葉経済大学大学院学則一部改正 (案) 千葉経済大学平成 21 年度学費 (案) 千葉経済大学短期大学部平成 21 年度学費 (案)	26	26 以上 30 以内
平成 20 年 11 月 18 日	千葉経済大学附属高等学校の平成 21 年度学費(案)	26	26 以上 30 以内
平成 21 年 3 月 17 日	平成 20 年度予算補正 (案) 平成 21 年度事業計画 (案) 平成 21 年度予算 (案) 千葉経済大学学則の一部改正 (案) 千葉経済大学大学院学則の一部改正 (案) 千葉経済大学短期大学部学則の一部改正 (案)	24	26 以上 30 以内

**(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。**

- ①プライバシー保護の観点から一般に公開することが適当でないものを除く財務資料の公開を推進するために、インターネットにも掲載している。

- ②理事会・評議員会の白紙委任をやめ、書面による議案に対する賛否を表明する方式の採用を検討している。
- ③事務機能の強化を図るために、事務機構の再編及びアウトソーシングの活用の方策について検討している。

### 【教授会の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係わる教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れの中で学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお、学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

学長は、教授会のみでなく各学科の学科会議、執行部会にも必ず出席し、教育研究活動に関するあらゆる審議に参加し、構成メンバーの意見も十分に聞いた上で最終的な判断をする等のリーダーシップを発揮している。

教育に関する具体的な事項は、まずは各部会、委員会で議論され、その成案が学科会議で検討され、その後教授会で審議されるという流れとなるが、各部会、委員会で議論される場合には、各部長、委員長と学長の間で密接な話し合いが持たれ、学長の基本方針との調整が行われている。

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成20年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。

なお、学則を添付して下さい。

教授会については、「学則」にその組織、審議事項が定められ、「教授会規則」にその召集、議事、執行部会に関する事等が定められている。学長が議長となり原則として年9回開催され、全教員で構成されている。

教授会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立するが、毎回欠席者は少なく、平成20年度の平均出席率は97.1%であった。

審議事項は「出席者の過半数」で可決されることとされているが、教員の資格審査に関する事項は「出席者の3分の2以上」の賛成をもって決することとされている。

教授会の審議事項は、次のとおりである。

- ①学則の変更に関する事項
- ②学科の設置及び廃止に関する事項
- ③ 教員資格に関する事項
- ④学科、授業科目の新設、改廃に関する事項
- ⑤ 学生の入学、休学、退学及び卒業に関する事項
- ⑥ 学生の賞罰に関する事項
- ⑦試験及び卒業に関する事項
- ⑧ 科目等履修生に関する事項
- ⑨その他学長が教育上必要と認めた事項

### 教授会開催状況（平成20年度）

開催年月日	議案	出席者数	定数
平成20年4月23日	①平成20年度第2期及び第3期一般試験入試結果について ②平成21年度入試日程変更について ③平成19年度卒業判定会議後の保留者の特別措置について	29	31
平成20年5月14日	①平成21年度入試問題作成委員及び入試委員会委員について ②学籍異動について ③新入生の既修得単位の認定について 他	29	31
平成20年6月11日	①教員人事について ②学籍異動について ③その他	28	31
平成20年7月9日	①教員人事について ②平成21年度AO入試実施要項について ③学籍異動について 他	29	30
平成20年10月8日	①平成21年度AO入試の可否判定について ②前期卒業判定について ③学籍異動について 他	30	30
平成20年11月12日	①教員人事について ②平成21年度指定校及び附属高校推薦入試結果について ③平成21年度第1期一般・特別推薦入試結果について 他	30	30
平成20年12月10日	①教員人事について ②平成21年度第2期一般・特別推薦入試結果について ③平成21年度第3期一般・特別推薦入試実施要項について 他	30	30
平成21年1月21日	①平成21年度第3期一般・特別推薦入試結果について ②平成21年度第1期・2期・3期一般試験入試実施要項について ③平成21年度大学C日程入試の不合格者への入試について 他	30	30
平成21年2月25日	①卒業判定について ②特待生について ③平成21年度第1期および第2期一般試験入試の結果について 他	30	30

(3) 学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成20年度の開催状況等を記述して下さい。

①学科会議について

学科会議は、「学則」で「教授会から委任された事項及び教授会に付議すべき事項

を審議する。」と定められている。

学科長は、教授会の議を経て学長が補し、学科の運営全般について学長を補するとともに、学科会議の議長として学科を運営している。

「教授会審議事項の運用に関する申合せ」により、学科会議は教員の資格に関する事項、専門教育科目の新設・改廃に関する事項、学生の入学・休学・復学・除籍・転科に関する事項等について実質的な審議を教授会より委ねられている。

学科会議は、その学科の専任教員で構成され、原則として毎月 1 回、教授会開催の前週に開催されている。

## ②各部会、委員会について

部会は、「学則」及び「部会・委員会規程」で、その設置と主な調査審議事項が定められている。

主として教務に関する事項全般について調査審議する「教務部会」、主として学生の厚生捕導に関する事項全般について調査審議する「学生部会」、学生の就職に関する事項を調査審議する「就職部会」の 3 部会が置かれ、原則として月 1 回開催されている。

委員会は、「部会・委員会規程」で「学長は、校務を分掌させるため、教授会の意見を聴いて、必要な委員会を置くことができる。」と規定されており、平成 16 年度は教職、図書館、研究、国際化、情報化、FD 推進、同窓会の 7 委員会が設置されている。なお、平成 17 年度から第三者評価委員会及びインターンシップ委員会が新たに設置された。各委員会は必要に応じて開催されている。

この他入学試験、学生募集のあり方等を検討するため、学長の諮問機関として「入試対策会議」が設置されている。

### (4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

現在の高等教育を取りまく状況が極めて流動的であるため、短期大学そのものの将来像が見えにくくなっている。そのため、本学の中、長期的な将来構想を策定するに至っていないことが問題点の一つと考えている。

### 【事務組織について】

#### (1) 現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼務の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

本学園の大学と短期大学部は、開学以来それぞれ個別の事務局を設置していたが、平成 12 年度に大学及び短期大学部の教育、研究の一層の有機的連携を図るとともに、職

務にあたって効率化、合理化を図るため、大学・短期大学部事務局に改組し事務の一体化を図った。

現在の事務局組織は事務局長のもと、庶務・大学学務・短大学務・キャリアセンター・図書館課及び入試広報センターで構成されている。

学園全体の組織図は、次表のとおりである。

**(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査の際にご説明下さい。**

事務職員の任用は学園全体を見て採用、昇任、配置換を行っているが、採用不補充の施策のもと新規の採用は極力控えられている。大学・短期大学部事務局においても、役職者の定年、自己都合による退職者の補充等による新規採用が行われているのが現状である。なお、採用者は幅広く人材を求め適任者を選考している。

**(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。**

事務組織に関する諸規程は、各課（室）の所掌業務等を定めた事務組織規程、人事・勤務時間・休暇・服務・給与・福利厚生等について定めた職員服務規定、そして非常勤職員の雇用・勤務時間・賃金等について定めた非常勤職員勤務規程である。

**(4) 決済処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。**

① 決済処理の概要について

起案文書は、関係部署の合議の上、事務局長の決裁を受け、重要なものは常任理事を経て学長、理事長の決裁を受けている。なお、定例的な会計関連の起案文書については、法人本部会計課を経て法人事務局長の決裁を受けている。

なお、通知、通達関係の書類については全ての課に回覧するとともに、重要な案件については学長に回覧している。

② 公印、重要書類の管理について

公印については、「学校法人千葉経済学園公印取扱規程」により、公印管理責任者は事務局長（公印管理代理責任者は庶務課長）とされ、公印の保管、使用その他の関係事務を処理している。公印は、公印箱に収納し、使用しない場合は金庫に格納し、施錠している。公印を使用する場合は、公印使用簿に所要事項を記入するよう定めている。

また、重要書類の管理は事務局内にある大型耐火金庫（3台）等に格納し施錠している。



### ③防災、情報システムの安全対策について

各教室・会議室・事務室等に火災探知装置を設置し、事故発生時には事務室内にある火災受信機で受信できる装置を設置するほか、各所に消火器を設置している。なお、防災施設の定期点検を年2回行っている。

情報システムについては、外部からの不正アクセス対策としては、ファイヤーウォールを設けて対策を構っており、ウイルス対策としては、クライアントにウイルス対策ソフトをインストールして対処している。

## (5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者(事務局長等)が現状を率直に記述して下さい。

小規模大学であり、教員と職員との関係は極めて密接であり、両者の信頼関係は極めて高い。教員が事務的な仕事を、事務職員が学生指導や授業準備等の仕事を行うなど、相互に意思疎通を図りながら事にあたることが多い。

満足度調査に見られるように、近年事務職員への学生の満足度も高まってきている。今後も事務職員の対応に不満を感じるような学生が出ないように努めていきたい。

## (6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント(SD)活動(業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等)の現状を記述して下さい。

本学の事務職員数は極めて限定的な人数であるため、組織的なSD活動を展開することは困難な面もある。そのため、日常業務を遂行しながら事務職員一人ひとりの資質、能力を高めていく必要がある。

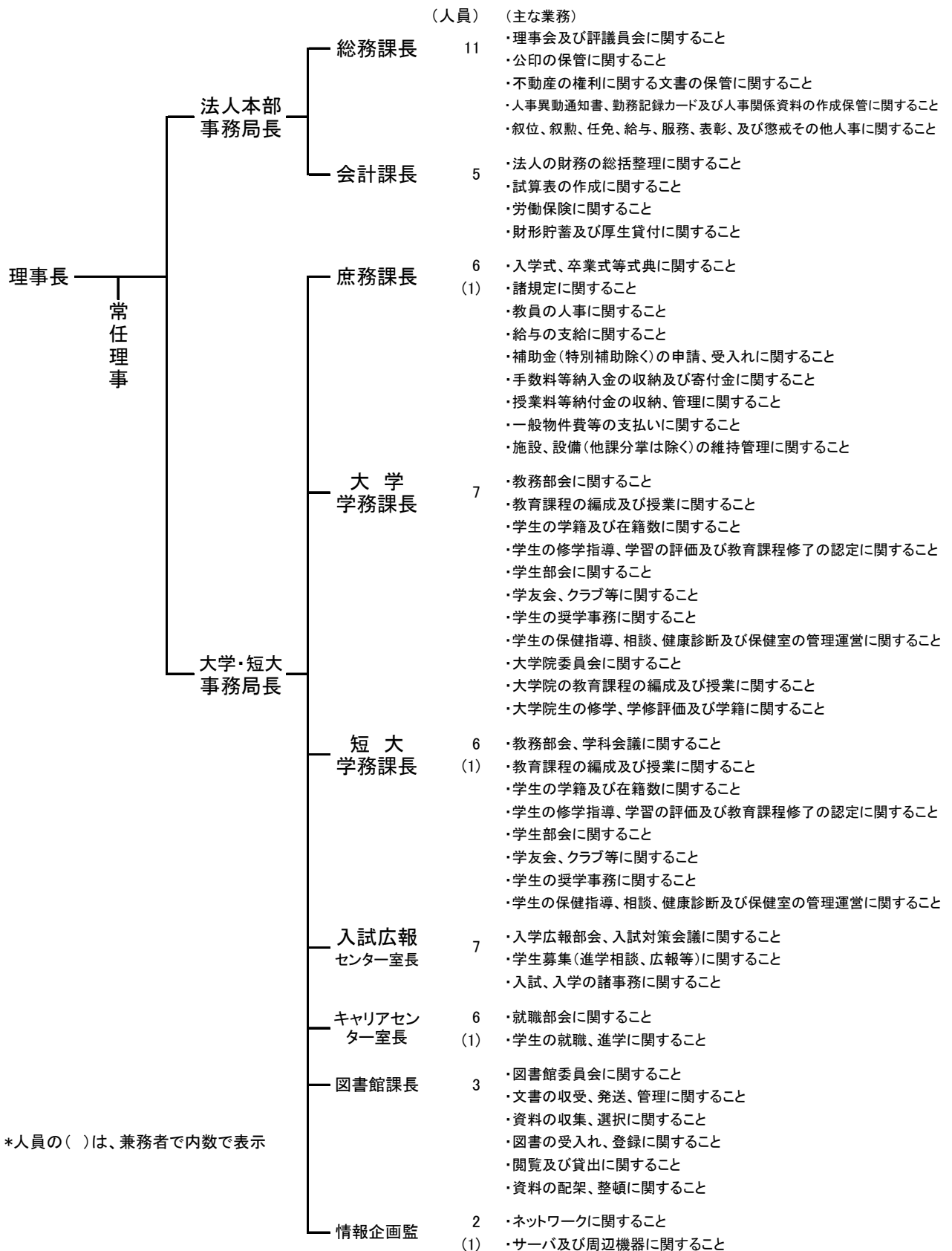
事務局においては、毎週一回、課長会議及び各部署で課内会議を行っている。ここでは、単に報告や連絡を行うばかりではなく、現下の高等教育を取り巻く状況や、国の新たな施策等についてもできる限り説明し、職員からも問題提起を行うように努めている。

また、若い職員を可能な限り外部の研修会や説明会等に参加させ、その内容を朝会において説明・解説させている。これにより、新しい情報等を全職員で共有するとともに、職員のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力向上のための機会としている。

## (7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

次の2点の課題について、特に改善に努めているところである。

- ① 事務組織が大学、短期大学部共通であるにもかかわらず、事務室が分かれており、相互の協力関係が希薄になりがちであること。
- ② 指示を受けて動くことに慣れており、問題意識や企画力が不足している向きがあるので、事務職員一人ひとりの意識改革を進める必要があること。



## 【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

教職員の服務規律、労働条件を定めた規程として、教員には「就業規則」、「教員の服務上の心得」、職員には「職員服務規律」があり、人事・服務・給与・福利厚生等について定められている。

なお、給与については多岐にわたるため、「教育職員給与規程」、「教育職員の初任給昇給昇格等の基準」、「教育職員通勤手当支給規程」、「学校法人千葉経済学園退職金支給規程」等を別に定めている。

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

現在、短期大学部学長は学園の理事長であるため、その関係は極めて近い。理事長は学長として日常的に教職員と顔を合せ、様々な事柄について公的に、また私的にコミュニケーションが図られている。

また、理事長（学長）は教授会、各学科の学科会議を始めとして学内の諸会議に出席しており、短期大学部教職員と密接な意見交換を行っている。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

前述のとおり、小規模の大学であるため、教員と事務職員は家族的な雰囲気のもとで緊密に業務に携わっている。

つまり、教員と事務職員との間によそよそしい隔たりはなく、教員が事務的な業務を行ったり、事務職員が学生指導的な業務を行ったりし、連絡を取りあって学生の教育、指導に当たっている。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の遵守等の現状を率直に記述して下さい。

教職員の健康管理については、法令に基づき毎年6月に定期健康診断を実施しており、また、保健室の専任の看護師も適切な対応をしている。

就業環境の改善については、健康増進法の施行に伴い、学校施設内を禁煙とするなど、その改善に努めている。

就業時間の遵守については、学校という性格上、学期の始期、終期等に業務が集中し、

その時期には超過勤務をせざるを得ない状況が生じるが、それは一時的なものであって、日常的に問題はない。また、授業の関係上、平日は午後 6 時まで、また土曜日の勤務が必要となっているが、交替勤務により適切に対応している。

**【特記事項について】**

特になし。

## Ⅸ. 財務

### 【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見しますのでご準備下さい。

中・長期の財務計画については現在策定されていない。

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

事業計画及び予算は、法人本部の統括の下、大学・短期大学部・附属高校・法人の各部門ごとに原案が作成され、法人本部の検討を経て策定されている。

また、予算は事業別予算編成となっているため、事業計画と予算は密接に関連している。決定に至る過程、手続きは次のとおりとなっている。

#### 1. 法人及び短期大学部の毎年度の事業計画について

##### <法人>

- ①法人本部にて各部門（大学・短期大学部・附属高校・法人）原案の検討と修正案決定
- ②学内理事会での決定
- ③評議員会での審議
- ④理事会での決定

##### <短期大学部>

- ①各部会・委員会（庶務・学務・入試広報・就職・情報企画・図書館）の検討
- ②各担当課（庶務・学務・入試広報・就職・情報企画・図書館）にて原案作成
- ③短大事務局（庶務課）での取りまとめ調整を経て原案を法人本部に提出

#### 2. 法人及び短期大学部の毎年度の予算について

##### <法人>

- ①法人本部から年度予算編成方針及び編成手続きの説明
- ②各部門の各担当課が予算要求原案を作成の後、法人本部に提出
- ③法人本部のヒアリング（各担当課単位）と調整
- ④法人本部にて修正案決定
- ⑤学内理事会での決定
- ⑥評議員会での審議
- ⑦理事会での決定

##### <短期大学部>

- ①各部会・委員会（庶務・学務・入試広報・就職・情報企画・図書館）の検討
- ②法人本部の年度予算編成方針及び編成手続きの説明を受け、各担当課（庶務・学務・入試広報・就職・情報企画・図書館）にて詳細な事業別予算要求書を添付した予算要求原案を作成
- ③各担当課が法人本部に原案を提出

**(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係わる経理、出納の業務の流れを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見しますのでご準備下さい。**

### 1. 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法

予算要求原案(事業別予算要求書・集計表)は、原案作成後に学園の共通サーバに保存され、法人本部会計課と各担当課はいつでも見れる状態となっている。法人本部のヒアリングや学内理事会等により修正があった場合は、修正記録の作成と予算要求原案の修正を同時に行っているため、共通サーバに保存されている予算要求原案は常に最新の状態で更新され、法人本部会計課と各担当課はその最新の予算要求原案を共有していることとなる。

従って、理事会の承認を受け、法人本部から予算要求原案が決定となったことを学内メールで連絡することで伝達されている。

### 2. 予算執行に係わる経理、出納の業務の流れ

予算執行に係る出納は、定期的に発生する経常的費用を除き、一定額以上の執行については、数社の見積りを比較の上、稟議により理事長の承認を得ることとしており、予算金額、目的・効果等について再確認がなされている。

経理、出納業務は法人本部会計課が一括して行っており、予算執行に係る経理、出納業務の流れは次のとおりとなっている。

- ①担当課において数社の見積書比較
- ②稟議により、短大事務局長、法人本部、法人事務局長、理事長の承認を得る。
- ③各担当課にて発注、納品の確認
- ④支払は、各担当課にて請求書等を添付した支出決裁書を作成、短大事務局長の承認を受け、法人本部会計課に依頼する。
- ⑤法人本部会計課は、支出決裁書に従い会計伝票を起票、会計課長を経て法人事務局長の決裁を受け支払を行う。

### 3. 財務諸規定

- ①千葉経済学園経理規程
- ②千葉経済学園経理規程施行細則
- ③千葉経済学園資金運用管理規程

(4) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士監査は、毎年延べ40日(公認会計士2名)程度実施され、私学振興助成法に基づく監査のほか、学園運営全般について管理運営が適当であるか財務面を通じて監査をしている。監査状況の概要は下記のとおりである。

公認会計士による監査実施状況(平成18年度～20年度)

年	月	日	摘要	備考
18	4	7	平成17年度決算関連監査 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 稟議書・伝票・証憑書類等	
		18		
		19		
		25		
		26		
	5	1	平成17年度決算関連監査 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 稟議書・伝票・証憑書類等  平成17年度計算書類監査 資金収支計算書・消費収支計算書 貸借対照表・附属明細書・財産目録等	
		8		
		12		
		15		
		16		
		17		
		23		
		25		
	6	2	平成17年度計算書類監査 資金収支計算書・消費収支計算書 貸借対照表・附属明細書・財産目録等	
		6		
		7		
		12		
		14		
18	11	7	平成18年度監査 寄附行為・諸規定・学則・事務分掌・組織図議 事録・稟議書・入学案内・募集要項 学校法人調査票等	
		8		
		9		
		21		
		24		
	12	18	平成18年度監査 寄附行為・諸規定・学則・事務分掌・組織図議 事録・稟議書・入学案内・募集要項等	
		19		
		20		
19	2	20	平成18年度監査	
		27		

19	3	14	資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 稟議書・伝票・証憑書類等	
		20		
		22		
		23		
19	4	10	平成 18 年度決算関連監査 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 稟議書・伝票・証憑書類等	
		13		
		17		
		18		
		24		
		25		
	5	7	平成 18 年度計算書類監査 資金収支計算書・消費収支計算書 貸借対照表・附属明細書・財産目録等	
		8		
		14		
		16		
		22		
	6	11		
12		17	平成 19 年度監査	
20	1	22	寄附行為・諸規定・学則・事務分掌・組織図議 事録・稟議書・入学案内・募集要項 学校法人調査票等 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 伝票・証憑書類等	
		4		
	3	19		
		20		
		4		
20	4	8	平成 19 年度決算関連監査 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 稟議書・伝票・証憑書類等	
		17		
		18		
		23		
		24		
		25		
	5	8	平成 19 年度計算書類監査 資金収支計算書・消費収支計算書 貸借対照表・附属明細書・財産目録等	
		9		
		15		
		16		
		21		
		23		
6	10			



20	11	21	平成 20 年度監査 寄附行為・諸規定・学則・事務分掌・組織図議 事録・稟議書・入学案内・募集要項 学校法人調査票等 資金収支元帳・給与台帳・授業料台帳 伝票・証憑書類等	
		25		
	12	1		
		19		
	1	20		
	2	4		
		19		
		20		
	3	2		
		18		

#### 1. 公認会計士と監事の連携

現在、公認会計士と監事の監査は連携していない。

監事の監査は、毎回の理事会に出席し、適宜質問や意見を述べ、業務執行状況が適切かどうかの監査を行っている。決算時には、会計書類の閲覧等を行い、経理責任者から決算概要の説明を求め、必要に応じて質疑を行い、本学園の業務及び財産の状況について監査を行っている。この結果については、理事会・評議員会で監査報告が行われている。

#### 2. 公認会計士から指摘を受けた事項への対応

公認会計士からの指摘事項については、直接関連当事者も交え指摘事項の確認を行い、主旨をよく理解し迅速に改善するよう対応している。

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第 47 条第 2 項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

#### 1. 財務状況の公開について

財務状況の公開は、平成 18 年度決算の財務状況までは、後援会機関紙への掲載、学内掲示板への掲示等で行っていたが、平成 19 年度決算の財務状況から本学園のホームページで公開を行っている。ホームページによる公開の内容は、決算概要、事業報告書、資金収支計算書、資金収支内訳表、消費収支計算書、消費収支内訳表、貸借対照表、財産目録、監事の監査報告書、役員・評議員の状況、在籍学生数の状況となっている。

#### 2. 私立学校法第 47 条第 2 項に基づく財務情報の公開について

私立学校法の改正に伴い、本学園財務書類等閲覧規程を制定し、平成 16 年度決算から、事業報告書、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録、監事の監査報告書を法人本部会計課に備付け、学生、保護者、教職員、その他の利害関係

人の閲覧に供している。

(6) 寄付行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見しますのでご準備下さい。

第2号基本金及び将来の施設拡充に対応した積立金等については、寄附行為及び本学園資金運用管理規程に基づき、確実な有価証券及び預金等で一般資金とは別に特定資産として保有、運用を行っている。

また、特定資産以外の資金については、本学園資金運用管理規程に基づき、元本回収の確実性、流動性の確保、効率性の追求を基本方針として、預金及び有価証券での保有、運用を行っている。

(7) 寄付金・学校債の募集を行っていればその概要を記述して下さい。なお寄付金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料として拝見しますのでご準備下さい。

本学園は平成15年に創立70周年を迎え、平成15年4月から平成19年3月までの期間、「建学の旗の下 みんなで創ろう 新世紀キャンパス」をコンセプトに、高等学校の新校舎建築、大学の学生ホール建築、短期大学部の体育館建築及び学科再編等の記念事業を計画し、新しい時代にふさわしい学園の整備・充実に取組んだ。

これらの記念事業の目標どおりの達成のため、千葉経済学園創立70周年記念事業募金委員会を設立し寄付募集を行った。

#### 【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年（平成18年度～20年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

## 【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位:千円)

区 分	18年度		19年度		20年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	2,695,516	806,155	2,686,000	788,087	2,587,855	736,388
手数料収入	68,486	16,741	62,898	15,513	62,370	14,129
寄付金収入	85,798		35,651		66,015	
補助金収入	736,515	115,026	739,577	113,288	725,959	103,080
資産運用収入	37,220	8,764	39,373	8,362	40,206	9,826
資産売却収入	200,905		725,786		422	
事業収入	27,347	96	29,023	83	32,651	93
雑収入	95,008	7,091	117,818	40,656	243,071	62,851
借入金等収入						
前受金収入	778,037	-	715,200	-	744,947	-
その他の収入	242,592	-	139,058	-	98,002	-
資金収入調整勘定	△ 841,678	-	△ 867,370	-	△ 930,440	-
前年度繰越支払資金	1,781,915	-	1,912,082	-	1,856,072	-
収入の部合計	5,907,661	953,873	6,335,095	965,988	5,527,131	926,366

## 【資金収支計算書／資金支出の部】

人件費支出	2,476,070	525,139	2,527,989	562,295	2,653,627	570,309
教育研究経費支出	765,387	198,543	704,233	188,186	673,410	169,287
管理経費支出	173,753	36,386	166,377	38,823	192,619	42,767
借入金等利息支出	36,339	5,912	35,033	6,786	31,694	6,029
借入金等返済支出	76,000	3,040	155,150	4,280	100,890	23,120
施設関係支出	129,533	94,072	64,148	27,000	143,988	1,201
設備関係支出	48,888	12,971	60,195	30,932	43,333	9,939
資産運用支出	306,632	-	754,404	-	201,613	-
その他の支出	69,582	-	100,810	-	115,276	-
資金支出調整勘定	△ 86,605	-	△ 89,317	-	△ 74,978	-
次年度繰越支払資金	1,912,082	-	1,856,072	-	1,445,658	-
支出の部合計	5,907,661	876,064	6,335,095	858,301	5,527,131	822,652

## 【消費収支計算書／消費収入の部】

区 分	18年度		19年度		20年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	2,695,516	806,155	2,686,000	788,087	2,587,855	736,388
手数料	68,486	16,741	62,898	15,513	62,370	14,129
寄付金	86,608	255	44,058	8,147	79,067	12,895
補助金	736,515	115,026	739,577	113,288	725,959	103,080
資産運用収入	37,776	8,906	39,929	8,504	40,026	9,780
資産売却差額	222		1,297	331		
事業収入	27,347	96	29,023	83	32,651	93
雑収入	95,008	7,091	117,818	40,656	243,071	62,851
帰属収入合計	3,747,478	954,271	3,720,598	974,608	3,770,999	939,216
基本金組入額合計	△ 125,172	△ 85,354	△ 172,133	△ 59,293	△ 137,093	△ 33,996
消費収入の部合計	3,622,306	868,917	3,548,465	915,315	3,633,906	905,219

## 【消費収支計算書／消費支出の部】

人件費	2,452,535	522,304	2,529,389	555,468	2,838,201	589,712
教育研究経費	1,065,029	259,141	1,006,360	250,669	973,633	234,283
(うち減価償却額)	(299,287)	(60,597)	(302,127)	(62,483)	(300,086)	(64,996)
管理経費	185,088	36,787	176,002	38,897	204,609	42,894
(うち減価償却額)	(11,545)	(401)	(10,467)	(74)	(10,497)	(127)
借入金等利息	36,339	5,912	35,033	6,786	31,694	6,029
資産処分差額	5,714	2,231			10,876	
消費支出の部合計	3,744,706	826,375	3,746,784	851,820	4,059,012	872,918
当年度消費収入(支出)超過額	△ 122,400	42,541	△ 198,320	63,495	△ 425,106	32,302
前年度繰越消費収入(支出)超過額	△ 1,294,330	-	△ 1,414,870	-	△ 1,613,189	-
基本金取崩額	1,861					
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	△ 1,414,870	-	△ 1,613,189	-	△ 2,038,296	-



(2) 学校法人の貸借対照表の概要(平成 21 年 3 月 31 日現在)を、別紙様式 2 にしたがって作成し、添付して下さい。

別紙様式 2

平成20年度末の貸借対照表の概要 (学校法人)

(20年度末日現在/単位:千円)

資産の部			
科 目	20年度末	19年度末	増 減
固 定 資 産	15,984,783	16,091,401	△ 106,618
有形固定資産	14,583,134	14,704,741	△ 121,607
その他の固定資産	1,401,649	1,386,660	14,990
流 動 資 産	1,879,640	1,964,224	△ 84,584
資産の部合計	17,864,423	18,055,625	△ 191,202

負債の部			
固 定 負 債	1,822,128	1,738,445	83,684
流 動 負 債	1,011,390	998,262	13,128
負債の部合計	2,833,518	2,736,706	96,812

基本金の部			
基本金合計	17,069,200	16,932,108	137,093

消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,038,296	△ 1,613,189	△ 425,106

(3) 財産目録及び計算書類(資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細票・借入金掲載表・基本金明細表)について、過去 3 ヶ年(平成 18 年度~20 年度)分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

(4) 過去 3 ヶ年(平成 18 年度~20 年度)の短期大学における教育研究経費比率(消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率)を、小数点以下第 2 位を四捨五入し第 1 位まで求め記述して下さい。

教育研究経費比率（平成18年度～20年度）

	18年度	19年度	20年度
教育研究経費支出 (a)	259,141 千円	250,669 千円	234,283 千円
帰属収入 (b)	954,271 千円	974,608 千円	939,216 千円
教育研究経費比率 a) / (b)	27.2%	25.7%	24.9%

**【施設設備の管理について】**

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

以下のように規程を整備して運用している。

- ① 固定資産管理規程
- ② 総合図書館資料収集管理規程
- ③ 体育館管理運営規程
- ④ 小講堂管理使用内規
- ⑤ 視聴覚教室利用規程
- ⑥ プール管理運営規程
- ⑦ 茶室「素心庵」管理使用内規

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

- ①火災等の災害対策
- ②防犯対策
- ③学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥その他

① 火災等の災害対策

各教室・会議室・事務室等に火災探知装置を設置し、事故発生時には事務室内にある火災受信機で受信できる装置を設置するほか、各所に消火器を設置している。なお、防災施設の定期点検を年2回行っている。

② 防犯対策

千葉経済学園の施設・建物の警備は総合警備保障㈱に委託している。休業日は終日、平日は午後4時から翌朝8時30分までの間、土曜日は午後1時以降警備員が在駐し、一定の間隔で校内を巡視し不審者、不審物等の監視を行っている。不測の事態が生じた場合は直ちに同社に通報され、同社の機動隊員が駆けつけて対応するとともに、

庶務課長（不在の場合は庶務課職員）に連絡し指示を受けるシステムとなっている。

③ 学生、教職員の避難訓練等の対策

学生等への避難訓練は、「防災規程」を定めその実施について準備を進めており、今秋には地元消防署の協力を得て防災訓練、避難訓練を行う予定である。

④ コンピュータのセキュリティ対策

サーバー室への入退室には指紋認証で、外部ネットワークへの接続はファイアウォールで、学外からのリモートアクセスについてはデジタル証明書で、ファイルについては、それぞれアクセス権を設定することで、許可されたユーザーのみが情報にアクセス可能となっている。

⑤ 省エネ及び地球環境保全対策

冷暖房、電源は各教室で点滅できるようにしているが、消し忘れ等が多いため各教室には、最後に退室する者が必ず消すように掲示するとともに、教員からもその徹底を学生に指示している。

また、ゴミは可燃物、不燃物、ビン、缶等に分別したゴミ箱を用意して分別して捨てるように指導している。また、粗大ゴミは指定した場所に出すようにしており、定期的に業者に回収させている。

**【特記事項について】**

特になし。

## X. 改革・改善

### 【自己点検評価について】

- (1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

「自己点検・評価に関する規程」(平成3年施行)第5条の規定に基づき短期大学部専門部会を設置している。構成員は、学長、学科長、教務・学生・就職部長、図書館長(又は副館長)及び事務局長で、「自己点検・評価報告書」作成作業等を行っている。

自己評価報告書作成に当っては、前年度当初から作成作業にかかり数度の専門部会で検討して原案作成等が行われた。

今後とも定期的に自己点検評価を実施していく。

<大学運営における位置付け>

短期大学を取り巻く状況が極めて厳しい中、客観的に自己の現状を分析し、問題点や課題の洗い出しをすることは、今後の存続にもかかわる重要な業務である。大学運営の中核として位置付け、全教職員が参画することが肝要と考えている。

- (2) 過去3ヶ年(平成18年度～20年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配布先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成18年度～20年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

18～20年度については印刷物としての自己点検・評価報告書は発行していない。

### 【自己点検評価における教職員の関与と活用について】

- (1) 平成20年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

専門部会、各部会、各専門委員会が議論し、全教職員が参画して自己点検評価に携わっている。

今後は、校務分掌以外の事柄についても全教職員が関心を持ち、健全な大学づくりのために率直な自己点検活動を行うことが重要と考えている。



**(2) 平成 20 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。**

今回の自己点検評価報告書の作成に当たっては、短期大学の教育・研究等全ての分野の改善の方向について、可能な限り具体的に記述することを心がけたところである。

その改善の方向については更に具体化し、実行策を検討する作業を各部会、専門委員会でやっている。

#### **【相互評価や外部評価について】**

**(1) 平成 20 年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。**

平成 17 年度に第三者評価を受けて以降、相互評価を行うべく、いくつかの短期大学と協議を行う等の努力を行ったところであるが、協議が不調に終わり実施に至ってはいない。

**(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。**

特に第三者評価を実施するための組織と別組織を設けている訳ではなく、又規程等も整備はしていない。しかし、理事長、学長の意思と教授会の協力によって、実施することに何の支障もない。

第三者評価の 7 年間の期間の間に相互評価又は外部評価を実施しようと考えている。

#### **【第三者評価（認証評価）について】**

**(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。**

「自己点検評価 短期大学部専門部会」は学長以下各学科長、各部長、事務局長等中核のメンバーで構成されている。

第三者評価を実施するための学内組織として、「第三者評価委員会」を設置し、「自己点検評価短期大学部専門部会」と同一構成員による体制を組んで真摯に対応している。

**(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。**

本学の教育・研究、学生指導、管理・運営等の現状は必ずしも十全なものではなく、改善すべき点は多々ある。それは、自己点検評価の結果からも明らかであり、今後とも地道な改善努力を継続していく事が肝要である。

教育は日々の営みであり、多様な学生を受け入れ、有為な人材として社会へ送り出し続けなければならない。そのために改善すべき点は速やかに改善し、日々の教育の中に生かして行きたいと考えている。

本学の現状について公平かつ客観的な幅広い視野で第三者評価を受け、課題や問題点を洗い出すことによって改革の方向を確認し、具体的な改革にあたっていきたい。それが今回、外部評価を受けるに当たっての学園としての考え方であり、決意である。

**【特記事項について】**

特になし。